



クリスチャン生涯を 生きる

真理の宝 パート 4

目次

1. 神の教会	5
2. メルキゼデクに等しい祭司	10
3. メルキゼデクの祭司職の組織	15
4. キリストにあずかるバプテスマ	20
5. 受けるよりも与える方が幸いである	26
6. いちじくの葉か、羊の毛か?	31
7. 青ひも	36
8. キリストと結婚する	41
9. イエスはわたしの死を死なれた	47
10. 結婚を回復する	52
11. 死がわたしたちを分かちまで	57
12. 主の喜び	62
13. 純真な良心を発達させる	67

セブンスデーアドベンチス
ト改革運動世界総会安息
日学校部 (P.O.Box 7240
Roanoke,Virginia 24019-
0240,U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.99,No.4

編集&発行:
S DA改革運動日本ミッション

〒368-0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保
1607-1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
<http://www.4angels.jp>

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト:Sermonview on
the front cover; Map
Resources on pp. 4,
46, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

まえがき

「主の大いなる日は近い、近づいて、すみやかに来る。主の日の声は耳にいたい。そこに、勇士もいたく叫ぶ。…わたしは柔和にしてへりくだる民を、あなたのうちに残す。彼らは主の名を避け所とする。イスラエルの残りの者は不義を行わず、偽りを言わず、その口には欺きの舌を見ない。それゆえ、彼らは食を得て伏し、彼らをおびやかす者はいない」。(ゼパニヤ 1:14; 3:12, 13)。この現実を心にとめて、世界中の安息日学校の生徒たちは真理の宝シリーズを今期パート4「クリスチャン生涯を送る」で締めくくります。

わたしたちが神の恵みを通してキリストに似た品性、すなわち主人への完全な献身を通して最終テストに耐えることのできる品性を発達させることは、どれほど重要不可欠なことでしょう。啓示者ヨハネは次のように述べています、「わたしはまた、大群衆の声、多くの水の音、また激しい雷鳴のようなものを聞いた。それはこう言った、『ハレルヤ、全能者にして主なるわれらの神は、王なる支配者であられる。わたしたちは喜び楽しみ、神をあがめまつろう。小羊の婚姻の時がきて、花嫁はその用意をしたからである。彼女は、光り輝く、汚れのない麻布の衣を着ることを許された。この麻布の衣は、聖徒たちの正しい行いである』(黙示録 19: 6-8)。

今こそ、このお方の義を培うべき時です。今こそ、バプテスマのヨハネの決心を反映することによって、わたしたちのうちにそれが表されるべき時です。

「ヨハネは自らを友と生活の贅沢から引き離れた。彼の衣服、ラクダの毛でおられた衣は、ユダヤ人の祭司たちや全般的な人々の贅沢と誇示に対する間断ない譴責であった。彼の食事、すなわちイナゴ豆と野蜜という純粋な菜食は、至る所にまん延していた食欲の放縱と暴飲暴食に対する譴責であった。

預言者マラキは次のように宣言している、『見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。』ここで預言者は働きの性質を述べている。キリストの再臨のために道を備えるべき人々は、ヨハネがキリストの初臨のために道を備えるためにエリヤの霊のうちに来たように、忠実なエリヤによって代表されている。改革という偉大な主題がかきたてられるべきであり、大衆の思いが揺り動かされるべきである。神の民がその偶像礼拝から、その暴食から、そして衣服やその他における贅沢から引き戻されるために、万事における節制がメッセージに関連づけられなければならない。」(教会への証 3 巻 62)

「何が真理であるかを理解できるときに、誤謬の中に入っていくことを選ぶ人々に言い訳の余地はない。イエスはご自分の苦しみと死のうちに、すべての無知の罪のための贖罪をなしてください。しかし、故意の盲目のための備えはないのである。」(ビュー・アンド・ハルト 1893 年 4 月 25 日)

主がわたしたちを助けて下さって、心を尽くして真理をつかむために、これらの時を尊ぶことができますように！

世界総会安息日学校支部

第一安息日献金

コロンビア、南西フィールド、メデリンの本部のために

コロンビアは南アメリカにおけるもっとも人口の多い国の一つで、440,831 平方マイル（およそ 1.14 百万平方メートル）に 5 千万人を越えています。石油、織物、電子機器、農産物が、主要産業の一部です。

人口の 90 パーセントがキリスト教を告白し、ほとんどがローマ・カトリックです。しかし、いかなる国教ももはや存在しません。また他の宗教に対する寛容さも奨励されています。セブンスデー・アドベンチスト改革運動が最初にここに到着したのは、メデリン市においてであり、1971 年に設立され、登録されました。それ以来、改革のメッセージは 2006 年までに国中に広まり、コロ



ンビア連合と三つのミッションフィールドが形成されました。今日、南西フィールドには何百人もの教会員がおり、500 人を超える求道者が神のみ言葉を学んでいます。それは、コロンビア人口の 42 パーセントを網羅する国土で 11 支部を含む広大な地域を担当しています。そのため、わたしたちはもっと効果的に働きに貢献する管理本部を緊急に持つ必要があるのです。わたしたちはかつて福音が伝えられていなかった新しい領域に拡張することができたことを神に感謝します。しかし、なお伝えなくてはならない数多くの魂がいます。

2006 年に土地を得て、今そこにメデリン教会が集会し、兄弟たちがこのフィールドの管理本部を制定するための場所が惜しみなく与えられてきました。建築事業が計画され、管理されて前進しています。信仰によって、わたしたちは世界中の親愛なる兄弟がたへ、第一安息日献金が集められるときに、この場所において神のみ働きが前進するために必要な資金を得るため、惜しみなくわたしたちを援助してくださいようお願いいたします。

「貧しい者は神の嗣業である。キリストは彼らのためにご自分の命を与えて下さった。このお方はご自分の管理者としてふるまうよう定められた人々に、貧しい人々を救済し、地上でのご自分の働きを支援するため、彼らにおしみなくゆだねられた資金を捧げるよう求めておられる。主は資源に富んでおられる。このお方がこの世における神の会計係として行動するためにお定めになった人がいる。このお方が彼らにお与えになったものを、彼らは神の奉仕に用いなければならない。」（福祉の働き 272）

神がご自分のみ事業の発展のために貢献するすべての惜しめない心を祝福し、増し加えて下さり、皆さんの献金が百倍にもなって戻ってきますように！

コロンビアの南西フィールドのキリストにおける兄弟より

神の教会

暗唱聖句：「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちににおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」（ヨハネによる福音書 17:21）

「キリストに従うと公言する人々は、自分たちの生活の中でこの祈りが答えられることを、どれほど熱心に求めるべきであろうか。」（教会への証 4 巻 17）

推奨文献： 教会への証 1 巻 323-325, 434-454

日曜日

10月1日

1. 一致のための祈り

- a. 十字架へと導いたどの問題が、弟子たちの間で表されましたか。そこで、どの新しい原則を、イエスは過越の食事の時に導入されましたか（ルカによる福音書 22:24; ヨハネによる福音書 13:34, 35; 17:21）。
- b. どのように調和を達成できますか（ヨハネによる福音書 17:23; イザヤ書 52:8; コロサイ人への手紙 1:23）。
- c. 調和とは何ですか、そしてそれは達成されたことがありますか（使徒行伝 2:1; コリント人への第一の手紙 1:10）。

「外面的な形式に関する多くのことが、すべて聖書に定義されているわけではなく、かえって決着をつけずにそのまま残されている。そして個人的な好みがちびしばこれらの事柄に関してあまりにも強く勧められてきた。すべてのことが信徒の体のある部分の習慣と一致していないとき、小さな相違が不満へとふくれ上がった、不一致を生じさせたりしないようにしよう。わたしたちがちしかるべき目的に到達する方法や手段はいつも厳密に同じわけではない。わたしたちはどのように動くか、理性と判断を用いるよう要求されている。経験が、現存する状況の下、何がとるべき最適な道かを示す。些細なことをめぐって争闘が起らないようにしよう。わたしたちの主イエス・キリストの愛と恵みの精神は、もし各自が心の窓を天に向かって開き、地に向かって閉じるなら、心と心を結ぶ。」（E.L.G. 1888 年原稿 1698）

2. 後に従う者たち

- a. 新しい教会でどのような問題が予告されていましたか（テサロニケ人への第二の手紙 2:3, 4）。
- b. 真の教師たちを識別する最善の方法は何ですか（ヨハネによる福音書 10:27-29）。

「東方の羊飼は羊を追いたてない。彼は、暴力や恐怖心に訴えないで、自分が先に行つて羊たちを呼ぶ。羊たちは、彼の声を知っているので、その呼び声に従う。救い主であられる牧者イエスも、これと同じように、ご自分の羊を取り扱われる。…預言者を通して、イエスは、『わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは愛する親切をもってあなたを引きよせた』と言われる。イエスは、わたしに従うよう、だれにも強制されない。『わたしは人の綱、すなわち愛のひもで彼らを導いた』と、イエスは言われる。」（各時代の希望中巻 278, 279）

「誤りが生じてそれらが聖書の真理として教えられると、キリストとつながっている者たちは牧師の言うことに信頼しないが、高貴なベレヤの人々のように、これらのことが本当であるかどうかを調べるために日々聖書を調べるであろう。彼らは主のみ言葉がなんであるかを見出すと、彼らは真理の側に立つであろう。彼らは真の羊飼いの『これが道だ、これに歩め』と言う御声を聞くであろう。このようにしてあなたは聖書をあなたの助言者とするように教育され、よそ者の声を聞かず従わないようになるであろう。」（信仰と行い 86）

- c. あらゆる場所で真の信者にどのような召しながされていますか。また、なぜ彼らは長年愛してきた者たちと離れることを選ぶのでしょうか（ヨハネによる福音書 10:16; ヨハネの黙示録 18:4）。

「イエスは、にせの羊飼にまちがった道へ連れて行かれた全地の魂に思いをよせられた。イエスがご自分の牧場の羊として集めようと熱望された人たちが、狼の間にちりぢりになっていた。そこでイエスは、『わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう』と言われた（ヨハネ 10:16）。」（各時代の希望中巻 281）

「今日宗教改革者たちに従う者であることを自称している人々の中には、彼らの精神に生きている者が少ない。神のみ声をもとめて耳をかたむけ、真理がどんな形で示されようと、それを受け入れる用意のできている人は少ない。宗教改革者たちの足跡に従う者たちは、神のみことばのはっきりした教えを宣言するために、愛する教会から離れなければならない場合がたびたびある。また光を求めている人たちは、神に服従するために、この同じ教えによってやむなく父祖たちの教会から離れなければならないことが幾度もある。」（各時代の希望上巻 285）

- d. かつては離れていたわたしたちは、どのように生き残りますか。またなぜ、囲いの中に入る必要がありますか（ローマ人への手紙 12:4, 5; エペソ人への手紙 4:25; 2:19; コリント人への第一の手紙 12:27）。

3. 聖徒たちをととのえて(完全にして)

- a. 神は教会を助けるために何をお与えになりますか、またどのような目的のためですか(エペソ人への手紙 4:8, 11-14; コリント人への第一の手紙 12:18)。

「わたしたちの救い主は牧師を送り出されるにあたり人々に賜物をお与えになった。それは彼らを通して永遠の命の言葉を世に伝えるためであった。これは知識と真の聖潔において聖徒を完全にするために神がお定めになった手段である。キリストの僕たちの働きは単に真理を宣べ伝えることではない。彼らは神に対して責任を負わなければならないものとして魂を見張らなければならない。彼らはあくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めるのである。

神の僕の働きによって恩恵を受けた者はみな、その能力に応じて、魂の救いのために彼と一致すべきである。これはすべての真の信者、牧師と民の働きである。彼らは大きな目標を常に視野に保ち、それぞれが教会の中で適切な位置をしめようと努め、すべての者が秩序、調和、愛の下に働かなければならない。」(教会への証 5 巻 237, 238)

- b. 教会におけるさまざまな賜物の目的は何ですか(マタイによる福音書 20:25-28)。

「神はご自分が望むままにその賜物を分け与えられる。このお方はある賜物のある者に、また他の賜物を他の者に授けられるが、それは体全体の益のためである。ある者はある分野で奉仕し、ある者は他の分野で奉仕して、すべての者が同じ御霊の下で働くのは神の御命令である。この計画を認識することはお互いへの争い、誇り、嫉妬、または軽蔑から保護されることである。それは一致とお互いへの愛を強固にする。」(両親、教師そして生徒への勧告 314, 315)

「神のすべての子らは、一人も欠けることがないように、全体とまた互いの他のすべての部分との関係としてみ事業を考慮するために、聖化された判断力を持つべきである。伝道地は広い。そして前進すべき改革の偉大な働きがある。一つ二つの分野においてではなく、あらゆる分野においてである。医事伝道の働きは、この改革の働きの一部である。しかし、それは決して、牧会における働き人たちをその働きの伝道地から離れさせる手段となってはならない。医事伝道分野における生徒たちの教育は彼らが教会や牧会との関わりの中で訓練されないかぎり、また牧会のために準備している人々の有用性は、もし彼らが健康という偉大にして重要な主題について知的になるなら、大いに増すのである。聖霊の感化力は、働きが適切な均衡を保ち、あらゆる分野で堅実に進められるために必要とされている。」(教会への証 291 巻)

4. 体を建てる

- a. 贖われた人々はどのような品性を持つようになりますか。またそのような品性を発達させるために何が必要ですか（ヨハネの第一の手紙 3:2, 3; ヨハネによる福音書 17:3）。

「真のきよめは愛の原則から出た働きによってあらわれる。『神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、神も彼にいます』（ヨハネ第一 4:16）。キリストが心に住む人の生活は、敬神の心を行いにあらわすであろう。品性はきよめられ、高められ、気高くされ、あがめられるであろう。純粋な教えは正義の働きとよく混じり合い、天来の教えは聖なる実践と調和するのである。」（患難から栄光へ下巻 263）

「キリストは完全な真理の体系であられる。」（セクレット・メッセージ 3 巻 198）

「初代のキリスト者たちは、実際、特殊な民であった。彼らの非難するところのない行状と確固たる信仰とは、絶えず罪人の心を責めるものであった。彼らは数が少なく、富も地位も名誉ある称号もなかったけれども、その品性と教義とが知られているところではどこでも、悪を行なう者たちにとって恐怖であった。」（各時代の大争闘上巻 39）

- b. 品性建設に不可欠な部分として、この教会で純粋な教理を保つことがどれほど重要ですか（ユダの手紙 3）。

「初期のクリスチャン教会の使徒たちと同労者たちは、絶えず異端に直面しなければならなかった。それらはまさに教会のふところの中で偽教師たちによって持ち込まれた。これらの教師たちは公然とやって来るのではなく、へびの様なうねりくねる動きで気づかれないように忍び込んできた。彼らは自分自身の致命的な方法に従ったが、他の人々を自分たちと一緒に引き出さずには満足しなかった。彼らには真理の鎖のつながりがなかったが、関連性のない寄せ集めの考えを、そこかしこの聖句によって支持しながら教えた。これらのつながりのない聖句は共に偽りの組織に織り込まれ、空想する人々の心を打ち、自ら聖書を調べることによって当時の真理に確立していなかった人々を欺くのであった。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1884 年 3 月 27 日）

「初期教会に忍び込みその繁栄を脅かした誤謬は、決して消滅しなかった。それらは特に現代において活動的であり、終わりの時代の危険の一つを構成している。そして神は当時のヨハネのように真理のために果敢に立つよう、わたしたちに求めておられる。わたしたちの心のうちに燃える真理の愛をもって、わたしたちは熱心に聖徒たちに『ひとたび伝えられた信仰のために戦』うのである。」（同上 1885 年 1 月 29 日）

5. キリストの体

a. 何がキリストの体ですか（コロサイ人への手紙 1:18; エペソ人への手紙 4:15）。

「世の贖い主は、組織され認められたご自分の教会から独立した宗教的な問題における経験や働きを承認なさらない。多くの人々は地上でこのお方のお認めになった従者たちから独立して、自分たちがただ自分の光や経験のためにキリストにのみ責任があるものであるという考えを持っている。しかし、パウロの改心の歴史の中で、わたしたちに重要な諸原則が与えられており、それは心にとめておくべきものである。彼は直接キリストのみ前に連れて来られた。彼はキリストが最も重要な働きのために計画しておられた者、すなわちこのお方のために『選ばれた器』となるべき者であった。それでいながら、このお方は個人的に真理の教訓を彼にお与えにならなかった。このお方は彼の道中でとらえて、有罪を宣告された。しかし、彼に『主よ、わたしに何をさせになりたいのですか』とたずねられたとき、救い主は彼をご自分の教会とのつながりにおかれ、教会に彼が何をすべきかを指示させたのである。」（パウロの生涯からのライフスケッチ 31）

b. キリストにはいくつの体がありますか。またなぜ、ときにこのお方への忠誠を公言している数がもっと多くあるのですか（エペソ人への手紙 4:4; イザヤ書 4:1）。

「一般に軽く見られがちな義務であるが、……教会に対する義務である。……キリストにつながることはキリストの教会につながることになる。」（教育 317）

c. なぜわたしたちは教会という立場の中におかれるのですか（コリント人への第一の手紙 12:19-26）。

「教会は奉仕のために組織されているのであって、キリストに奉仕する人生の第一歩はまず教会につながることでなければならない。キリストに忠誠をつくす者には教会の義務を忠実に果たすことが要求される。」（教育 317）

個人的な復習問題

1. わたしたちの熱心な祈りは何であるべきですか。またどのように達成されますか。
2. だれが真理を教えているかを、わたしたちはどのように知ることができますか。
3. 教会における賜物は、どのように教会員を完全にするための助けとなりますか。
4. 教理は、品性の形成にどのような役割がありますか。
5. キリストの体、すなわちこのお方の認められた教会の一部になることは、なぜ重要なのですか。

メルキゼデクに等しい祭司

暗唱聖句：「この望みは、わたしたちにとって、いわば、たましいを安全にし不動にする錨であり、かつ『幕の内』にはいり行かせるものである。その幕の内に、イエスは、永遠にメルキゼデクに等しい大祭司として、わたしたちのためにさきがけとなって、はいられたのである。」（ヘブル人への手紙 6:19, 20）

「使徒たちは、ユダヤ人の世界と異邦人の世界という石切り場で、土台を築くための採石の仕事をしていた。」（患難から栄光へ下巻 303）

推奨文献： 各時代の希望中巻 176-185, 同左下巻 342, 343

日曜日

10月8日

1. キリストの祭司職

- a. 何が、レビ系の祭司制よりもメルキゼデクの祭司制をよりすぐれたものとしていますか（ヘブル人への手紙 6:19, 20; 7:7, 11, 19, 22, 27）。
- b. それはどのように祭司制のための律法に関連していますか（ヘブル人への手紙 7:12, 28）。
- c. どの預言がこの変更が計画されたことを示していますか。またどのようにこれはただイエスのことを述べていることがわかりますか（詩篇 110:1, 4; 使徒行伝 2:34-36; ヘブル人への手紙 6:20）。

「大祭司は、特別な方法でキリストをあらわすように計画されていた。このお方が永遠にメルキゼデクに等しい大祭司となられるのであった。この祭司制は他の人に移譲されたり、他の人によって引き継がれたりすることはないのであった。」SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント], 7 巻 930)

「キリストが大声で『すべてが終わった』と叫んで十字架上で息を引き取られたとき、このお方の働きが完成した。道が開かれ、幕は二つに裂けた。人は犠牲の供え物なしに、地上の祭司の奉仕なしに神に近づくことができた。キリストご自身が永遠にメルキゼデクに等しい祭司であられた。天がこのお方の住まいであられた。このお方は御父を表すためにこの世に来られた。このお方の屈辱と闘いの戦場における働きは今、果たされた。このお方は天へ上られた。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1899 年 8 月 16 日）

2. メルキゼデクの働きの基礎

- a. クリスマン信仰の基礎は何ですか（マタイによる福音書 16:16-18; コリント人への第一の手紙 10:4; 3:11）。

「ペテロが告白した真理は、信者の信仰の土台である。これこそキリストご自身が永遠のいのちであると宣言されたものである。だがこの知識を持っていることは、自己称賛の理由にはならなかった。それがペテロに示されたのは、彼に知恵や徳があったからではなかった。人間はひとりて神についての知識に到達することはできない。」（各時代の希望中巻 178）

- b. わたしたちは基礎がペテロではないことが、どのようにわかりますか（マタイによる福音書 16:21-23; エレミヤ書 17:5）。

「教会の中の信任の地位を占めることによって、その人は他の人たちに何を信じさせ、何をさせるかを命令する権威が与えられると主張する人が多い。神はこの主張を是認されない。救い主は、『あなたがたはみな兄弟』であると宣言しておられる（マタイ 23:8）。人はみな試みに会い、誤りを犯しがちである。有限な人間の指導にたよることはできない。信仰の岩は、教会内におけるキリストの生きた存在である。どんなに弱い者も、キリストにたよることができ、自分は一番強いと思っている者も、キリストを力としないかぎり、一番弱い者であるということがわかる。」（同上 183）

- c. この基礎において、純粋な教理はどれほど重要ですか（ヨハネの第一の手紙 2:21; ヨハネの第二の手紙 1:10, 11; 箴言 4:18）。

- d. イエスが来られたときに準備ができているのは、どのような種類の教会ですか。またそれはなぜですか（エペソ人への手紙 5:26, 27; テモテへの第一の手紙 3:15）。

「神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議（これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびただしい数にのぼって内容も千差万別である）、大衆の声、—これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、『主はこう言われる』という明日な事実をその裏づけとして要求すべきである。」（各時代の対戦闘下巻 360, 361）

3. 基礎... (続)

- a. 個人的な真理の理解が、わたしたちのために何をなしますか。またどこでその簡潔な理解を見いだすことができますか (ヨハネによる福音書 8:32; 詩篇 119:142)。

「わたしたちの主は、わたしたちがこのお方のうちに見いだす満ちみちた徳と充足を、ご自分の教会が世に反映するよう計画された。わたしたちは絶えず神の恵み深さから受けており、受けたものを与えることによってキリストの愛と慈善を世に表わすのである。全天が活動し、贖いの働きを前進させるために、地の至る所へ使命者を派遣するかたわら、生ける神の教会もまたキリストの共労者であるべきである。わたしたちはこのお方の神秘的な体の肢体である。このお方が頭であり、体のすべての肢体を支配しておられる。イエスご自身が、その無限の憐れみのうちに人の心に働いておられ、霊的な変化をもたらし、あまりにも驚くべきものなので、天使たちが驚きと喜びをもって見ている。主人を特徴づけた同じ無私の愛がこのお方に真に従う人々の品性と生活のうちに見られるようになる。キリストは人がこの世にいる間にご自分の神性にあずかる者となるよう期待しておられる。こうしてこのお方の栄光を神の讃美へと帰すだけでなく、天の輝きで世の闇を照らすのである。こうしてキリストの次の言葉が成就する。『あなたがたは世の光である。』」(教会への証 731 巻)

- b. 聖霊は個人を最終的にどこへ導きますか。またそれ以外に聖書の中で何と呼ばれてますか (ヨハネによる福音書 16:13; ヘブル人への手紙 12:23)。

「神の戒めを守る人々、パンだけではなく、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる人々が生ける神の教会を構成する。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 949)

「ああ、どれほど多くの人が自分自身の道を行き、自分自身の意志を望むために、キリストのみこころを痛めていることであろう。闘いの向きを変えてこれらの品性の好ましくない特質に対して戦おう。そうすれば、それらが生ける神の教会の中で人に敵対することはなくなる。もし教会の中に、イエス・キリストのご生涯を特徴づけていたような要素ばかりが存在するなら、堅い一致があることであろう。世は教会を弱め滅ぼそうと敵対している。しかし、神の教会は共に押し進みなさい、共に押し進みなさい、共に押し進みなさい。サタンに教会員の間に入り込ませてはならない。問題の敵の側で一撃を加えてはならない。利己主義を捨て去りなさい。教会の一人か二人が教会の良心的な人全部であるかのように考えてはならない。あなたは自分の思想や自分の行動においてあまりにもせますぎる。」(原稿リ-ス 15 巻 147, 148)

4. 基礎にあずかる人々

- a. 他にだれがクリスチヤンの基礎の一部を構成しますか。またなぜ彼らはそこにいるのですか（エペソ人への手紙 2:19, 20; 4:11, 12）。
- b. わたしたちはなぜこの建物の一部となる必要があるのですか。またどのように交わりわたしたちを助けますか（エペソ人への手紙 4:13-16）。
- c. わたしたちの教会との関係はどれほど重要ですか。またそれは個人個人ではなく、集団的な体組織をなす教会員について述べているのだということが、どのようにわかりますか（マタイによる福音書 16:18, 19; 18:17-20）。

「同じ教会のメンバーの意見に敬意を払うことがあまりにも少なすぎる。兄弟の間で非常に多くの問題を引き起こしているのは、教会の意見に対する敬意の不足である。教会の目は、誤っている人が見ることのできない教会の個々の教会員の中にあるものを識別できるであろう。わずかな数人は、過ちのうちにいる一人と同じように盲目かもしれない。しかし、教会の大部分は、個々の教会員を支配すべき力である。」（教会への証 5 巻 107 巻）

- d. 教会にはどの権威がありますか（ヨハネによる福音書 20:21-23）。

『あなたがたが許す罪は、だれの罪でも許され、あなたがたが許さずにおく罪は、そのまま残るであろう』とキリストは言われた（ヨハネ 20:23）。キリストはここで、他人をさばく自由をお与えになっているのではない。山上の垂訓で、イエスはこのことを禁じられた。それは神の大権である。しかし、組織された教会に、キリストは、教会員個人に対する責任を負わせておられる。罪におちいる人たちに対して、教会は警告し、教え、できるなら回復する義務がある。『あくまでも寛容な心でよく教えて、責め、戒め、勧めなさい』と主は言われる（テモテ第二 4:2）。まちがった行為に対して正しい態度をとりなさい。危険のうちにあるひとりびとりの魂に警告なさい。自分をごまかしているのをそのままにしておいてはならない。罪を罪と呼びなさい。うそをつくこと、安息日を破ること、盗むこと、偶像をおがむこと、そのほかあらゆる悪について神が言っておられることを告げなさい。『このようなことを行う者は、神の国をつぐことがない』（ガラテヤ 5:21）。もし彼らがあくまで罪を離れないならば、あなたがたが神のみことばによって宣告したさばきは、天で彼らの上にくだるのである。罪を犯すことをえらぶことによって、彼らはキリストを否認するのである。教会は、彼らの行為を承認しないということを示さねばならない。さもなければ、教会自身が主をはずかしめることになる。教会は、神が罪について言っておられることを言わねばならない。教会は、神が指示しておられるとおりに罪を処理しなければならない。そうするとき教会の行動は天で批准される。教会の権威をあなどる者はキリストご自身の権威をあなどるのである。」（各時代の希望下巻 343, 344）

5. イスラエルの国民

- a. この教会は、どのように真のイスラエルの国民ですか（マタイによる福音書 21:43; ペテロの第一の手紙 2:9, 5）。

「パリサイ人は、自分たちはアブラハムの子であると宣言していた。この主張はアブラハムのわざをすることによってのみ立証できるのだと、イエスは彼らにお告げになった。アブラハムの真の子ならば、アブラハムと同じように、神に服従する生活を送るであろう。彼らは、神から与えられた真理を語っておられるおかたを殺そうとはしないであろう。キリストに対して陰謀をくわだてているのだから、ラビたちは、アブラハムのわざをしているとはいえなかった。アブラハムの系図による子孫であるということだけでは、何の価値もなかった。アブラハムと同じ精神を持ち、同じわざをすることにあらわされる霊的關係がないならば、彼らは、アブラハムの子ではなかった。

この原則は、長い間キリスト教界を騒がせた問題、すなわち使徒の継承という問題に同じように重大な関係がある。アブラハムの子孫ということは、名や血統によらず、品性が似ていることで証明された。同じように使徒の継承は、教会の権威を引き継ぐことにあるのではなくて、霊的な関係にあるのである。使徒たちの精神、彼ら初の教師たちの後継者とならせるのである。が教えた信念と真理の教えとを原動力とする生活—これが使徒の継承の真の証拠である。これが人を福音の最初の教師たちの後継者とならせるのである。」（各時代の希望中巻 256, 257）

- b. わたしたちはどのようにこの国民の一部となりますか（マタイによる福音書 7:24-27; 使徒行伝 2:37-41, 47; ガラテヤ人への手紙 3:26-29）。

「教会に加わることと、キリストにつながることは、まったく別のことである。教会名簿に登録されているすべての人が、小羊のいのちの書に登録されているわけではない。多くの人々が、まじめな信徒に見えても、キリストとの生きたつながりを維持していない。彼らは参加した。彼らは自分たちの名を登録した。しかし、内なる恵みの働きが心の中でなされなかった。その結果、彼らは幸せではない。そして彼らは神に仕える働きを一生懸命するのである。」（教会への証 5 巻 278 巻）

個人的な復習問題

1. なぜ祭司職を変更する必要があったのですか。
2. わたしたちが信頼できる唯一の基礎は何ですか。
3. あらゆる真理を知ることが、どのようにわたしたちを生ける神の教会へ導きますか。
4. 教会は、その教会員に対して、どのような責任がありますか。
5. 今日、何が真のイスラエルを構成していますか。

メルキゼデクの祭司職の組織

暗唱聖句：「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。」（ヨハネの第一の手紙 3:2）

「悪が生じるのは組織のゆえではない。そうではなく、組織をすべてにするからであり、生ける信心を大して重要でないものにするからである。」（クリスチャン教育の基礎 253）

推奨文献： 患難から栄光へ上巻 203-215

日曜日

10 月 15 日

1. 教会における主要な賜物

- a. わたしたちが持っている賜物に関わらず、互いにどのように扱うべきですか。最初に言及されている賜物をいくつかあげなさい（ローマ人への手紙 12:10; コリント人への第一の手紙 12:28-30, 11）。
- b. 牧師のいくつかの義務を説明しなさい。そしてなぜ彼らの働きは一つの教会に限定されていないのですか（ヨハネによる福音書 21:15-17; コリント人への第二の手紙 11:28; テトスへの手紙 1:5; コリント人への第一の手紙 4:17）。

「より年配の牧師たちは、教訓や模範によって若い人々に、伝道地における働きの働きは説教からなっているという理解を与えることがないように気をつけるべきである。若い牧師たちが最も必要としている教育は、彼らがみ事業のさまざまな部署で働くことができるようにし、疲れ果てている人々を過労から解放する教育である。教会にはまた奉仕へ導き入れることのできる能力を持ち、働きのある部分の責任を持つべき信徒がいる。主のぶどう園にすることのない人はいないと感じるようにさせなさい。」（ビュー・アズ・ヘルト 1883 年 7 月 24 日）

- c. だれが働き人を選び、ひとたび選ばれると、何になりますか（コリント人への第二の手紙 8:16-19, 23）。

「その生活が清くなく、現代の真理を教える資格のない者が、教会や一般信徒の承認を得ないで伝道地に入っていくと、混乱と不統一を引き起こす。」（初代文集 191）

2. 接手

- a. 長老の役割は何ですか。またわたしたちは彼らをどのように扱うべきですか（使徒行伝 20:28; ペテロの第一の手紙 5:1-5; ヤコブの手紙 5:14; ヘブル人への手紙 13:17, 18）。
- b. 接手の過程を述べなさい。そしてそれがいつ適切であるかを説明しなさい（使徒行伝 6:1-3, 6; 14:23; テモテへの第一の手紙 4:14; テトスへの手紙 1:7-9）。

「責任が個人にゆだねられるべきとき、問題は彼が雄弁であるか、裕福であるかではなく、彼が正直であり、忠実であり、勤勉であるかである。なぜなら、彼の実績が何であろうと、これらの資質がなければ、信任のどのような立場にもまったく適さないからである。」（教会への証 4 巻 413 巻）

「わたしはあなたが、問題について何も知らないときに、伝道地で働くためにあの人やこの人が召されていると考えてきたのを見た。あなたは心を読むことができない。もしあなたが第三天のメッセージの真理を深く飲んできたならば、神からだれが召されているか、あるいは召されていないかをこれほど自由に語ることはないであろう。祈ったり上手に話したりできるという事実が、神がその人を召しているという証拠ではない。すべての人には感化力があり、その感化力は神のために物申すべきである。しかし、この人やあの人が自分の時間を魂のために労するのにつき込むかが、最も深い重要な問題である。そして神以外のだれもこの厳粛な働きにだれがたずさわるべきかを決めることはできない。使徒たちの時代に善人はいた。力強く祈り、要点を語ることでできる人がいた。しかし、使徒たち、すなわち悪霊たちにまさる力を持ち、病人をいやした人々は、人を神のための代弁者となる聖なる働きのために取り分ける際、自分たちの知恵だけで決めようとはしなかった。彼らは聖霊のあらわれという間違いようなない証拠を待った。わたしは神がご自分の選ばれた牧師たちに、だれが聖なる働きにふさわしいものであるかを決定する義務を課されたのを見た。そして教会と一致し、聖霊の明白なしるしをもって、彼らはだれが行くのにふさわしいか、まただれがふさわしくないかを決定するのであった。わたしはもしこの偉大な働きのためにだれが十分であるかを決定するのをそこかしこのわずかな個人に任せるとき、至るところで混乱と注意散漫という結果になるのを見た。」（同上 1 巻 208, 209）

「モーセやダビデの時代に、神の民の中で指導者を導いた同じ敬虔な正義の原則は、福音による律法の時代に、新たに組織された神の教会を監督する人々によっても、受け継がれなければならなかった。すべての教会において物事をきちんと整え、役員として働くにふさわしい人々を任命するにあたって、使徒たちは旧約聖書に述べられている、指導者の高い標準を固く守った。」（患難から栄光へ上巻 98）

3. 公の罪

- a. わたしたちは教会の中にある罪をどのように扱うべきですか（マタイによる福音書 18:15-20; ヤコブの手紙 5:19, 20）。ひとたび、人が教会員の地位から離れたとき、もう一度戻るための唯一の方法は何ですか（使徒行伝 2:38）。

「あなたは自分の兄弟や姉妹や隣人について、その人のところへ行って神が絶対的にお命じになった段階をとる前に、他の人に彼らを悪く言うことを言い訳してきた。あなたは次のように言う、『どうしてですか、わたしは自分が抑えておくことができなくなるほど重荷を感じるまでだれにも言いませんでした』。何があなたに重荷を負わせたのであろうか。それは単に主はこう言われるというあなた自身の義務をあきらかなおざりにしたことではないか。あなたは自分とその人だけの間で、罪を犯した人のところへ行ってもそのあやまちを告げなかったために、有罪宣告の下にいる。もしあなたがそうしなかったのなら、もしあなたが神に従わなかったのであれば、心のうちに自分の兄弟や隣人を憎むことによって神のご命令を足の下に踏みつけながら、あなたの心がかたくなになるのでないかぎり、どうして重荷を感じないでいられようか。そして、あなたは自分から重荷を取り除くために、どのような方法を見つけたのであろうか。神はあなたの兄弟にそのあやまちを告げることをしなかった罪のためにあなたを譴責なさる。そして、あなたは自分の兄弟の欠点を他の人に告げることによって罪を犯すことによって、自ら言い訳し、慰めているのである！これは安逸を買うのに正しい方法だろうか―罪を犯すことが？」（教会への証 2 巻 53 巻）

「あやまちを犯している兄弟を救うためには、自己の尊厳を犠牲にすることも、自分のいのちを捨てることさえもできると言う時に初めて、あなたは自分の目から梁を取りのけ、兄弟を助ける備えができたと言えるのである。その時あなたは、彼に近づき、彼の心を感動させることができる。非難やけん責によって悪から立ち返った者はいない。多くの者がそれによってキリストから離され、心を閉じて悔い改めなくなってしまった。優しい精神、穏やかな、人を引きつける態度は、あやまちに陥っている人を救い、多くの罪をおおうことができる。あなた自身の品性のうちにキリストがあらわされる時、それは、あなたの接するすべての者を変化させる力を持つのである。」（祝福の山 160）

- b. すべての罪についてマタイによる福音書 18 章に従う必要がありますか。説明しなさい（テモテへの第一の手紙 5:20）。

「〔ある姉妹の〕夫は、わたしが教会の前に彼女の欠点を持ち出したことに和解できなと感じているようであった。そしてもしホワイト姉妹がマタイ 18:15-17 にあるわたしたちの主の指示に従っていたなら、自分は傷つかなかったであろうと述べた。…」

わたしの夫はそのとき、主のこれらの言葉は、個人的などが場合に言及していること、そしてこの姉妹の場合には適用できないことを理解すべきだと述べた。彼女はホワイト姉妹に対して罪を犯したのではなかった。そうではなく、教会とみ事業の反映を脅かす公の悪は公に譴責されたのであった。」（教会への証 2 巻 15）

4. 教理を確定させる

a. すべての教会員が教理的な問題について決定しますか(使徒行伝 15:3-6)。

「クリスチャンの体全体が問題について投票するよう召されてはいなかった。使徒たちと長老たち一感化力と判断の人々が教会の決定をまとめ、発行した。それはクリスチャンの諸教会によって全般的に受け入れられたのであった。」(パウロの生涯からのスケッチ 70)

「すべての教会員は教会の役員を選出するのに投票権を持っている。教会は州会議の役員を選ぶ。州会議によって選ばれた代表者たちはユニオン会議の役員を選ぶ。そしてユニオン会議によって選ばれた代表者たちが世界総会の役員を選ぶ。この取決めによって、すべての会議、すべての施設、すべての教会、そしてすべての個人は、直接であれ代表を通してであれ、世界総会でも最高の責任を担う人を選出するのに声を持つのである。」(教会への証 8 巻 236, 237)

b. ひとたび公式な決定がなされると、その決定をどのように扱うべきであり、それは体組織全体にどのような効果を及ぼしますか(使徒行伝 15:22-30; 16:4, 5)。

c. もし個人個人の教会員や働き人がこのような決定を拒んだら、どうなりますか(マタイによる福音書 15:14; ヨハネの黙示録 2:1, 2; ローマ人への手紙 16:17)。

「真理の光を持っている人々のために偽装のうちに用意された千もの誘惑がある。そしてわたしたちのうち唯一の安全は、最初に経験のある兄弟にそれを持ち出すことなく、新しい教理や新しい聖書の解釈を受け入れないということである。それを謙遜な教えを受ける精神で、熱心な祈りをもって彼らの前に持ち出さない。そしてもし彼らがその中に光を認めないなら、彼らの判断にゆだねなさい。なぜなら、『助言者が多ければ安全である』からである。」(同上 5 巻 293)

「神は民を導いておられる。一人はこれを信じ、他はあれを信じるようなそこかしこに分かれている数人の個人ではない。神の天使たちは自分たちの信任にゆだねられた働きをなしている。第三の天使は民を導き出し、清めている。そして彼らは第三天使と一つになって動くべきである。ある者はこの民を導いている天使たちの先を走る。しかし、その人はすべての歩みを引き返さなければならない。そして柔和に天使たちの導きに従わなければならない。わたしは神の民が自分たちに伝えられた重要な真理を受け入れ、それに従って行動することができるよりも早い速度で、神の天使たちが導くことはないことを見た。しかし落着きのない精神は自分の働きを半分も仕上げていない。天使たちが彼らを導くとき、彼らは何か新しいもののために急ぎ、神の導きなしに急ぐ。こうして、仲間のうちに混乱と不和を持ち込むのである。」(同上 1 巻 207)

5. 神の保護

- a. 神はご自分の教会をどのようにご覧になりますか（申命記 32:9, 10; ゼカリヤ書 2:8）。

「主がユダヤ国民を選び、彼らに他の民と結合してはならないとお命じになったとき、それは彼らが墮落しないためであり、世に与えるための光が彼らに伝えられるためであった。主はご自分の光が他の国民の上に照ることを拒まれたであろうか。否。しかしこれらの偶像国家は防壁を築き上げ、障害物を間に入れ、ますます光から遠くへ離れていった。一つの国家が神聖な真理の保管者とされなければならなかった。こうして少なくとも光線が世にかがやき出る一つの媒介があるためであった。同様にこの時代神はもっとも神聖な真理をご自分の民に委ねてこられた。このお方は彼らが自分たちを囲む闇のただ中でふりそそぐ光を持つよう意図しておられる。」（エレン・ホワイト 1888 年原稿 1012）

「もしわたしたちが自らの身を神の側、キリストと天の知的存在者の側におくなら、全能者の広い影がわたしたちの上を覆い、イスラエルの力ある神がわたしたちの助け手であられるので、わたしたちは恐れる必要がない。神の民に触れる者は、このお方のひとみに触れるのである。」（同上 903）

- b. どのような種類の教会が、イエスのために準備ができていますか（テスへの手紙 2:11-14; ヨハネの第一の手紙 3:2, 3）。

「キリストはその全き従順によって、あらゆる人間が神の戒めに従うことができるようになされた。人が自分自身の心をキリストにささげるとき、心はキリストの心と結合し、意志はキリストの意志に没入し、精神はキリストの精神と一つになり、思いはキリストのうちにとらわれて、わたしたちはキリストのいのちを生きる。これがキリストの義の衣を着ることである。」（キリストの実物教訓 292）

個人的な復習問題

1. だれが教会へ賜物を与えますか。まただれがそれらが用いられる方法を決めますか。
2. 働き人の按手に関して、心にとめるべき主要な原則をいくつかあげなさい。
3. 個人的な罪と公の罪が述べられるべき方法を区別しなさい。
4. だれが教理的な問題を確定させ、その決定に関して、わたしたちはどうすべきですか。
5. 地上にいる神の民への神の保護は、どのように表現されていますか。またイエスが再び来られるときに、彼らはどのような品性を持っていなければなりませんか。

キリストにあずかるバプテスマ

暗唱聖句：「すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。」（ローマ人への手紙 6:4）

「バプテスマの儀式と主の晩餐は二つの記念的な柱であり、一つは教会の外、もう一つは教会の中のものである。これらの儀式に、キリストは真の神のみ名を記してこられた。」（教会への証 6 巻 91）

推奨文献： 教会への証 6 巻 91-99

日曜日

10月22日

1. 完全への道

a. 福音の宣布と共に何がなされますか（マルコによる福音書 16:15, 16）。

「キリストはバプテスマを受けに来られたが、悔い改めるための罪の告白のためではなかった。なぜなら、このお方には罪のしみはなかったからである。このお方はご自身の模範によって罪人がとるように要求されている段階を取ることで、罪人のために道を提示された。彼は悔い改め、信じる罪人のために救いの道を明確に示された。」（ユース・インストラクター 1874 年 1 月 1 日）

「〔再洗礼を受けたために首を切られるのを目撃し、メノー・シモンズ〕は、幼児洗礼に関して聖書を調べてみた。彼は、それを支持する証拠を聖書の中に見つけることはできなかった。かえって、バプテスマを受ける条件として、悔い改めと信仰が至る所で要求されているを見た。」（各時代の争闘上巻 301）

b. 完全への道において、バプテスマはどこにふさわしいですか。またこの道のり全体において何が必要とされていますか（マタイによる福音書 5:48; ヘブル人への手紙 6:1, 2; コリント人への第二の手紙 13:5; ローマ人への手紙 6:1-3）。

「キリストはバプテスマを霊の王国への入り口のしるしとなさった。このお方はこれを、父、子、聖霊の権威の下にあると認められることを望むすべての人が従わなければならない明白な条件とされた。」（教会への証 6 巻 91）

2. 知識

- a. 自己を十字架につける過程は、どのように始まりますか（ローマ人への手紙 7:4-12; 詩篇 19:7; ヤコブの手紙 1:22-25）。

「私たちのキリストへの愛は、罪の自覚の深さに比例し、律法によって罪の知識を得る。しかし、私たちが自分自身を見るとき、私たちをすべての不義から贖うためにご自身をささげられたイエスに目を向けよう。信仰によってキリストの功績をつかみなさい。そうすれば、魂を清める血が塗られる。…キリストの福音は、人間に律法を破る許可を与えはしない。なぜなら、悲惨な水門が私たちの世界に開かれたのは不法を通してだったからである。」（信仰と行い 96）

- b. なぜ律法を完全な域にまで理解することが必要なのですか。またわたしたちはそれについて何を悟らなければなりませんか（ヨハネによる福音書 1:12, 13; 3:3-5; ローマ人への手紙 7:13; 6:16）。

「バプテスマは世の最も厳粛な放棄である。父、子、聖霊の三つの御名によってバプテスマを受けた人々は、クリスチャン生活の入り口で、サタンの奉仕を捨て、王室の一員、天の王の子供になったことを公に宣言するのである。彼らは、次の命令に従ってきた。『彼らの間から出て行き、…分離せよ…そして、汚れたものに触れてはならない』。そして彼らに次の約束が成就する。『そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる』（コリント第二 6:17, 18)。（教会への証 91 巻）

- c. 律法に対する単なる知的な同意はどれくらい効果がありますか。またそれは魂にどのように影響を与えますか。（マタイによる福音書 23:2, 3; 5:20; ローマ人への手紙 7:24）。

「キリストの時代に人々の心のうちにあった最大の欺瞞は、真理にただ同意することが義であるということだった。真理を理論的に知っているということだけでは魂を救うのに不十分であることが、人間のあらゆる経験を通して証明された。それは義の実を生じない。いわゆる神学的な真理を熱心に重んじることは、生活にあらわされる真正の真理に対する憎しみをしばしば伴う。」（各時代の希望中巻 16）

「標準は高められるべきであり、説教は最も霊的な性格のものであるべきである。それは、人々が彼らの弱さと不幸の理由を認めるように導かれるためである。多くの人は自分が聖なるものでないために、不幸である。心の清さ、思いの無邪気さは、神によってのみ祝福されることができる。」（教会への証 6 巻 53）

3. 古き人を十字架につける

- a. カルバリーの経験から離れて、十字架につけられる方法がありますか（ローマ人への手紙 6:5-8; ガラテヤ人への手紙 2:20; コロサイ人への手紙 3:3）。

「多くの親はまだ改心したことがないので、彼らの古い自己放縱の習慣は彼らと一緒に教会に持ち込まれてきた。彼らはバプテスマの儀式を守ったときに、自己に死んでいなかった。彼らは生きてまま埋葬され、彼らの心の邪悪さのゆえに、彼らの心はつぶやきに満ち、あら捜しに満ちたままであり、主の僕を通して彼らに来るメッセージを憎んでいた。彼らは神と敵対しており、彼らの子供たちは同じ雰囲気の中で呼吸している。」（原稿リ-ス 21 巻 35）

「バプテスマ志願者の側では、より徹底的な準備が必要である。彼らは通常与えられているよりも忠実な教えを必要としている。クリスチャン生活の諸原則は、新たに真理に来るようになった人々に明らかにされるべきである。キリストとの救いのつながりがあることの証拠として、信仰の告白に頼ることはできない。

私たちは『信じます』と言うだけでなく、真理を実践しなければならない。私たちの言葉、私たちのふるまい、私たちの品性において、神のみ旨に従うことによって、私たちは神とのつながりを証明するのである。律法の違反である罪を放棄するときはいつでも、その人の人生は律法への調和、完全な従順へ導かれる。これは聖霊の働きである。注意深く研究されたみ言葉の光、良心の声、御霊の努力は、心の中に本物のキリストへの愛を生み出す。このお方はその人全体、すなわち体、魂、霊全体を贖うために完全な犠牲をささげられた。そして愛は従順のうちに明らかにされる。神を愛し、神の戒めを守る人々と、神を愛さず、神の戒めを無視する人々の間で、境界線は明確になる。」（教会への証 6 巻 91, 92）

- b. なぜ自己に死ぬことは命の始まりなのかですか。それはどれくらいの頻度で必要とされていますか。またどのようにそれを維持しますか（ヨハネによる福音書 12:24; コリント人への第一の手紙 15:31; コロサイ人への手紙 2:6）。

「自己を否定し、謙遜な生活を送るのはなぜそんなに難しいのだろうか。なぜなら、クリスチャンだと公言する人々が世に対して死んでいないからである。私たちが死んだ後では、生きるのがたやすくなる。」（同上 1 巻 131）

「キリストとともに働く者として、実を結ぶことを願う者は、すべてまず地に落ちて死ななければならない。世界の必要という畑のうねの中に自分の命をまかななければならない。利己心と自己中心主義を殺さなければならない。しかし、この自己犠牲の法則は自己保存の法則でもある。」（キリストの実物教訓 66）

4. バプテスマの意味

- a. 自己に死ぬこととキリストを着ることは、どのように勝利へと変わりますか（コリント人への第二の手紙 5:21; ヨハネによる福音書 14:30; ローマ人への手紙 6:1, 2; 13:14）。

「わたしたちはキリストを着なければならない。あらゆる言葉と行いにおいてキリストのようであらなければならない。こうして、わたしたちは神の性質にあずかる者となるのである。」（説教と講和 2 卷 197）

- b. 完全に水に浸ることは、どのようにクリスチャン経験を象徴していますか（ローマ人への手紙 6:4）。

「キャンプ集会から戻った直後、わたしはほかの数人とともに恩恵期間にある教会へと連れて行かれた。わたしの心はバプテスマという主題について非常に熱心に動かされていた。わたしは若かったので、聖書によって承認されたバプテスマに一つの方法しか認めることができなかった。それは浸水であった。」（教会への証 1 卷 19）

- c. キリスト教にとって、死ぬことの他に何かありますか（ガラテヤ人への手紙 3:27; コリント人への第二の手紙 5:17）。

「農夫は、まくことによって、穀物を保存するのである。そのように、人生においても、与えることは、生きることである。保存される命とは、神と人との奉仕のために、おしげもなくさげられる命である。この世においてキリストのために、その命を犠牲にしたものは、それを保って、永遠の命に至るのである。」（キリストの実物教訓 66, 67）

「福音のメッセージを心に受け入れたものは、みな、その使命を他の人びとに宣べ伝えたいと願うものである。天から与えられたキリストの愛は、どうしても表わさなければならない。キリストを着たものは、聖霊が一步ずつ導いてくださったことを振りかえって、その経験を語るのである。すなわち、自分が神と、神のおつかわしになったイエス・キリストとを知ろうとして、飢えかわいたことや、聖書研究の成果や祈りや自分の経験した魂の苦悩のことを話す。そして、キリストが「あなたがたの罪はゆるされた」といわれたことを語る。だれでも、このようなことを秘密にしておくことはできない。キリストの愛に満たされたものは、かくしておかない。主が自分を聖なる真理の保管者にくださったその度合に応じて、他の人びとにも同じ祝福をあたえようと望む。そして、彼らが神の豊かな富を人びとに語れば語るほど、キリストの恵みがますます彼らに与えられる。彼らは、幼児のようなすなおな心で、真心から服従する。彼らの魂は、きよめを慕い求める。そして、真理と恵みの宝が、ますます、彼らにあらわされるようになる。そして、それが全世界に伝えられる。」（同上 103）

「品性に表現された神とイエス・キリストについての知識は、ごく最上の教育である。それは天国の都の門を開く鍵である。」（両親、教師、生徒への勧告 37）

5. 評価

- a. バプテスマの準備には、知的な知識以上のことがあることがどのようにわかりますか（マタイによる福音書 28:19, 20; 3:7, 8; ペテロの第一の手紙 3:3, 4）。

「キリスト・イエスにあつて新たに造られた者はみたまの実を結ぶ。つまり『愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制』（ガラテヤ 5:22, 23）を生じるのである。もはや、かれらは以前の欲望に従つて歩まず、神のみ子の信仰によつてみ足跡に従い、そのご品性を反映しながら、このお方がきよくあられるように、自らをきよくする。以前にはきらっていたものを今は愛するようになり、かつて愛していたものはきらうようになる。高慢、不遜な人は、柔和、けんそんになる。軽佻浮薄な人はまじめに控え目になり、酒に酔う者はそれをやめ放蕩者は純潔になる。世的なむなししい習慣や流行を追う気持はなくなる……

であるから、もし改革が起らなければ真に悔い改めたとはいえない。質物を返し、奪ったものを返し、罪を告白し、神と人とを愛するようになったならば、その人は確かに死より生に移っているのである。」（キリストへの道 75, 76）

- b. なぜ自己吟味は贖われた人の生活の不可欠な部分であり、それぞれの吟味の終わりに何をすべきですか（コリント人への第二の手紙 13:5; 6:2）。

「私たちは自分の品性を神の律法の無謬な基準と比較しなければならない。これを行うには、聖書を調べ、神の言葉によつて私たちのなしたことを測る必要がある。キリストの恵みを通して、品性における最高の到達が可能である。なぜなら、神の御霊のかたちづくる感化力の下にあるすべての魂は、思いと心が変わるからである。」（キリスト教育の基礎 214）

個人的な復習問題

1. なぜバプテスマはキリスト教経験の一部なのですか。
2. なぜ真理の知識は、改心において非常に重要なのですか。また理論的な知識の他に、何が必要とされていますか。
3. 死は、どのように命の始まりですか。
4. なぜ浸水のバプテスマが、キリスト教生涯の適切な象徴なのですか。
5. 日々の自己吟味の必要性を説明しなさい。

第一安息日献金 ミッションのための安息日聖書教科のために

クラスでだれ一人安息日聖書教科を持っていない安息日学校に通うことを想像できますか。今日、電子機器やインターネットなど、レッスンにアクセスする方法はさまざまですが、これらの選択肢の中には、多くの伝道地や、幾つかの国の多くの安息日学校の生徒が利用できないものもあります。



地球規模のパンデミックの年は、教科の作成と国境を越えた資料の輸送のために、多くの国で安息日聖書レッスンの流通に関連する大きな困難を引き起こしました。例えば、長い間郵便サービスが完全に停止されている場所があり、一部の太平洋諸島は2年以上教科を受けることができませんでした。

また、アフリカ大陸の多くの国では国境が閉鎖されていたため、ほとんどの国に教科を送る方法がないように思われました。神は私たちの兄弟たちに憐れみ深く、ドアが閉まっているときに窓を開けてくださいました。すべての郵便サービスは停止されましたが、DHL などの国際エクスプレスサービスや同様の専門運送業者が運行していました。送料は大幅に増加しましたが、アフリカ諸国のほとんどの兄弟たちに教科を送ることができることに感謝しています。

昨年、多くの国境が開かれ始めたことを主にとっても感謝しています。今こそ、ミッションが安息日聖書教科を再び受けられるように支援するチャンスです。

「一致は力である。分裂は弱さである。現代の真理を信じる人々が一致するとき、彼らはもののいう感化力を発揮する。」(教会への証 236 巻)

私たち全員が同じ教科と一緒に研究するとき、この目的はよりよく達成されます。

この事業を考慮し、伝道地にいるすべての人が安息日聖書教科を手に入れられるように、そして、わたしたちが霊的に成長し、主のまもない再臨に備えるためにともに研究できるように、惜しみなく捧げてください。

主の大義のために与えられた未亡人と彼女の二枚のレプタのように、神があなたとあなたの贈り物を豊かに祝福してくださいように！

世界総会出版支部

受けるよりも与える方が幸いである

暗唱聖句：「そこで主が言われた、『主人が、召使たちの上に立てて、時に応じて定め、の食事をそなえさせる忠実な思慮深い家令は、いったいだれであろう。主人が帰ってきたとき、そのようにつとめているのを見られる僕は、さいわいである。よく言うておくが、主人はその僕を立てて自分の全財産を管理させるであろう。』」（ルカによる福音書 12:42-44）

「これらすべての組織的で定期的な献金に加えて、自由献金を求めることには、荒野に建てられた幕屋やエルサレムに建てられた神殿など、特別な目的があった。これらの原案は、神が人々自身の利益のために、また神の奉仕を維持するために人々に課して作られた。（教会への証 4 巻 468）

推奨文献： 管理職への勧告 65-68

日曜日

10月29日

1. のろいの下で労する

- a. 宮を建てているときに、ユダヤ人に何が起こりましたか（ハガイ書 1:2-11）。
- b. 什一や献金を差し出さずにおくことは、神からどのようにみなされますか。その結果は何ですか。そしてなぜそれは結局のろいとなるのですか（出エジプト記 20:15; マラキ書 3:8, 9; 申命記 8:18; 箴言 10:22）。

「自分の資力を利己的に抱え込んでいる者たちは、神のみ手が彼らの所有物をまき散らされたとしても驚くにはあたらない。神の働きと目的を進めるためにささげられるべきであったのに、差し控えられていたものが、いろいろなやり方で取り去られるかもしれない。神は裁くために彼らに近づかれるであろう。彼らは多くの損失をこうむるであろう。もしご自分の家令に貸し与えておいたものを、彼らが神の栄光のために用いるのを拒めば、神はその資力を散らすことがおできになる。ある者は、これらの損失の一つも自分たちの義務を怠った結果であると思わないかもしれないが、この場合はさらに希望がないことになる。」（SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1183）

- c. 変化をもたらすには何が必要ですか（ハガイ書 1:7; マラキ書 3:7）。

2. エリヤのメッセージ

- a. なぜわたしたちはエリヤの生涯を研究する必要があるのですか（マラキ書 4:5, 6）。

「ヨハネがキリストの初臨の道を備えるためにエリヤの霊のうちに來たように、キリストの再臨のために道を備える者たちは忠実なエリヤによって表されている。」（教会への証 3 卷 62）

- b. 命を与えるメッセージの極めて重要な部分を与えるとは、どのようなことでしょうか（列王紀上 17:13-16）。

「これ以上に大きな信仰のテストを要求することはできなかった。やもめ女は、これまで、すべての旅人を親切に手厚くもてなしたのであった。今、彼女は、自分と子供が苦しみに会うことをも顧みず、イスラエルの神が、彼女のすべての必要を満たしてくださることを信じて、「エリヤが言ったとおりに」行い、旅人をもてなすことについてのこの最高のテストに耐えたのである。……

ザレパテのやもめ女は、彼女の乏しい食物をエリヤに分け与えた。そして、その返礼として、彼女と彼女の息子の生命が保護されたのである。」（国と指導者上巻 98, 99）

- c. なぜ神は、人々に一貧しい人も含めて一財産をお与えになるのでしょうか（マルコによる福音書 10:21, 22; ルカによる福音書 21:1-4）。

「神は他の人々に分け与えることができるために彼らにお与えになる。」（サイズ・オブ・ザ・クリスチアン 1900 年 10 月 31 日）

「主は時々現世での繁栄に関してご自分の民を試みられる。しかしこのお方は彼らのご自分の賜物を正しく活用することを意図しておられる。彼らの財産、時間、力、そして機会はすべてが神のものである。兄弟たちの間に欠乏や困窮が見られ、自分たちの必要な物は提供されている時に彼らへの救済を差し控えるのなら、わたしたちは神の言葉に明らかにされている明白な義務を怠っているのである。わたしたちが他の人々に与えることができるようにこのお方は惜しみなくわたしたちに与えて下さる。利己心に勝利させ、魂を高尚にし、きよめるのは、慈善である。神から与えられたタラントを誤用する者もある。彼らはこのお方のご目的が見えないように目を閉じ、飢えたものに食べさせ、裸な者に着せるという自分たちの義務を示す神の声が聞こえないように耳をそむける。神の子だと公言するある人々は、与え主にささげ物や献金のうちにお戻しなくしてすむように、自分たちの資金を世に投資することに熱心であるように見える。彼らは自分たちの神聖な義務を忘れており、そしてもし彼らが利己的な心の命じるままに従い続け、彼らの誇りを満足させるために貴重な時間と財産を費やすならば、神は経済的な挫折をもたらし、彼らは忘恩のために身を切るような欠乏を感じるようになるであろう。神はご自分のタラントをより忠実な管理者にお委ねになり、彼らは自分たちの上に置かれたこのお方のご要求を認めるであろう。」（教会への証 4 卷 619, 620）

3. のろいを逆転させる

a. のろいを逆転させる方法がありますか（マラキ書 3:10-12）。

「ある者は彼らの隣人に正直に対応していなかったので、彼らはこれらの罪を告白し、その後、返却を行った。翌週中に神と正しい関係をもたないで、結果として自ら神から離れていた人々のうちのある者は、自分たちが差し控えていたものを戻し始めた。ある兄弟は、二年間什一を支払ってこなかった。彼は総会の書記に、自分が出さずにいた什一と利子を上乗せした金額 571.50 ドルの手形を渡した。わたしは彼にこうする勇気のあったことを主に感謝した。他の人は、300 ドルの手形を渡した。神から背信し、これまで彼の足が再び義の道に踏み入れる希望はほとんどなかった別の男性は、1,000 ドルの手形を渡した。」（教会への証 5 巻 643）

b. 什一が行くべきところへ行っていないとき、その結果は何ですか（ネヘミヤ記 13:10）。

「神の計画に従ったならば、資金は今や神の宝庫に流れ込んでいたであろう。そして、牧師が新しい伝道地に入り、地の暗い場所で真理の旗印を掲げることにおいて働き人が牧師と協力することを可能にする資金は豊富にあったであろう。」（同上 6 巻 386）

「不満を抱いて言った人もいる、『私はもう什分の一を納めません。なぜなら、私は働きの中心部での管理方法が信用できないからです。』しかし、あなたは働きの管理が正しくないからといって、神から盗むのであろうか。あなたの苦情を、正しい精神で、しかるべき人に明白かつ明らかにしなさい。物事を調整して秩序正しく整理するために請願書を送りなさい。しかし、他の人が正しく行っていないからといって、神の働きから差し控えて、不誠実であることを表してはならない。」（同上 9 巻 249）

c. 倉とは何ですか、まただれがそれを管理していましたか（ネヘミヤ記 13:10-13）。

「什一は神聖なものであり、神によってご自身のために取りおかれている。それは神の宝庫に持ち込まれ、福音の働き人たちの働きを支えるために使われるべきである。什一が神の取り置かれた財産であることを悟らない者たちがいるために、長い間、主は盗まれてきた。」（同上）

「什一が使用される目的—牧師を支える—という目的から引き離される時、大きな間違いを犯す。現在一人しか働き人がいないところに今日、十分に資格のある働き人が百人いるべきである。」（同上 248）

4. 所有者

- a. エデンの園の歴史において、神の所有権を認めて捧げるという原則を、わたしたちはどのように認めることができますか（創世記 2:15-17; レビ記 27:30）。

「主はエデンの中に、目に美しく食べるに良いすべての木を創造された。そして、アダムとエバはこのお方の豊かさを自由に楽しんだ。しかし、このお方は一本の例外を設けられた。善悪の知識の木からは、彼らはとって食べてはならなかった。神が万物の所有者であることを絶えず思い起こさせるものとして、神はこの木を取りおかれた。こうして、このお方はご自分の要求への完全な従順によって、ご自分を信じる信仰と信頼を示す機会を彼らにお与えになった。」（教会への証 6 巻 386）

- b. だれのために什一は取りおかれていましたか。それはなぜですか（申命記 18:1, 2; 民数記 18:20-24）。

「什一は主のものである。そして、それを勝手にさわるものは、悔い改めない限り、自分たちの天の宝を失うことによって罰せられることになる。これ以上、什一が主の言われた唯一の行き先以外のさまざまな分野に分散されることによって、働きが行き詰ることのないようにしよう。これらの働きの他の分野のために備えがなされるべきである。それらは維持されるべきであるが、什一からではない。神は変わっておられない。什一はなおも牧会を支えるために用いられるべきである。新しい伝道地を開くためには、今以上に牧会の力が要求される。そして、金庫には資金がなくてはならないのである。」（福音宣伝者 227, 228）

「〔神〕はご自分の宝を人の手におゆだねになるが、神の働きのために十分の一是忠実に取り分けられているべきことを要求なさる。このお方はこの部分を彼の宝庫に置くことを要求なさる。それは彼自身のものとして彼に捧げられるべきである。それは神聖であり、神聖な目的のためにすなわち、世界のすべての地域に救いのメッセージを伝える人々の支援のために、神聖な目的のために用いられるべきである。彼はこの部分をとっておかれる。その資金が、つねに彼の宝庫に流れ込むためであり、真実の光が近くにいる人々と遠くにいる人々に運ばれるためである。この要求に忠実に従うことによって、私たちはすべてが神のものであることを認めるのである。」（教会への証 6 巻 386）

「私たちの民のために、非常に明白で明確なメッセージが私に与えられた。什一を、それ自体は良いものであっても、主が什一を用いるべきだと言われた目的ではない様々な目的のために什一を用いることによって間違いを犯していることを彼らに伝えるよう命じられている。このように什一を使う人々は、主の取り決めから離れているのである。神はこれらのことのために裁かれる。」（同上 9 巻 248）

5. 牧会の働き

- a. 資金を集めるにあたり、だれがレビ人と共にいるべきでしたか（ネヘミヤ記 10:38）。
- b. 祭司を支えるために、レビ人たちは什一をもって何をなすよう要求されていましたか（民数記 18:26-28）。

「〔神〕はご自分の宝を人の手に委ねられるが、神のみ働きのために十分の一を忠実に取っておくことを要求しておられる。…

そして、主は私たちにこれを要求する権利がないであろうか。わたしたちを愛し、わたしたちを死から救いたいと望んでおられたがゆえに、主はひとり子をお与えになったのではなかったか。そうであれば、地上におけるこのお方の王国を前進させるために引き出せるよう私たちの感謝のささげ物がこのお方の宝庫に流れ込まないのであるか。神が私たちのすべての財産の所有者であられるために、神への感謝が私たちに自由意志のささげ物や感謝のささげ物をするように促し、それによって魂、体、霊、財産の神の所有権を認めないであろうか。

「神の計画に従ったならば、手段は今や神の宝庫に流れ込んでいたであろう。そして、牧師が新しい伝道地に入り、地の暗い場所で真理の旗印を掲げることにおいて働き人が牧師と協力することを可能にする資金は豊富にあったであろう。」（同上 6 卷 386）

- c. この原則はどのようにキリスト教時代に当てはまりますか、またわたしたちが忠実に捧げるとき、どのような結果になりますか（コリント人への第一の手紙 9:11-14; コリント人への第二の手紙 9:6, 7）。

「宗教と慈善の目的のためにヘブル人に要求された献金額は、彼らの収入の四分の一に及んだ。人々の財産に、このような重税が課せられたのでは、人々は貧困に陥ってしまうと思われるであろう。ところが、この規則に忠実に従うことが、彼らの繁栄の条件の一つであった。」（人類のあけぼの下巻 161, 162）

個人的な復習問題

1. 什一や捧げものを差し控えることはわたしたちの私生活に何を引き起こしますか。
2. 捧げることの重要性に関してわたしたちはエリヤの生涯から何を学ぶことができますか。
3. どのようにのろいを逆転させることができますか。
4. 什一は特別にだれのために取り分けられていますか。
5. 什一と捧げものは地元の教会のためにのみ計画されたものでしょうか。

いちじくの葉か、羊の毛か？

暗唱聖句：「こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪のゆるしはあり得ない。」（ヘブル人への手紙 9:22）

「神の民の良い行いには言葉よりも大きな影響力がある。」（教会への証 2 巻 443）

推奨文献： 人類のあけぼの下巻 37-51

日曜日

11月5日

1. 人類と共に生きる

- a. 現在、また永遠を通して神が人類に求めておられる関係を述べなさい（出エジプト記 25:8; ヨハネの黙示録 21:1-3）。
- b. このお方は個人的な関係を望んでおられるがゆえに、このお方の諸原則に反対する者たちと友情を結ぶことができますか。また具体的な違いはどこにあるのでしょうか（マタイによる福音書 6:24; ヤコブの手紙 4:4; コリント人への第二の手紙 6:14-18）。

「キリストに従う者たちは世から出て、分離し、汚れたものに触れないということが求められており、彼らはいと高き者の息子娘にならせていただくという約束である。しかしこの条件が彼らの側で守られないならば、彼らは約束の成就を実現することは決してできない。」（教会への証 2 巻 441）

- c. 世の人々に対してのわたしたちの義務を説明しなさい（ヨハネによる福音書 17:15, 16; マタイによる福音書 5:16）。

「主は、この世のものではないが、この世にいるご自分の民をお持ちになるであろう。彼らは、高い所にいる人々の前に真理をもたらそうと努め、彼らに証拠を受け入れ、よく考慮する公正な機会を与えるべきである。啓発されておらず、知らされていない人々が多くいる。そして個人として、私たちにはなすべき真剣で厳粛で賢明な働きがある。私たちは高い所にいる人々のために魂の苦しみをもって、婚宴に来ようとの恵み深い招待を持って彼らのところに行くべきである。高い所にいる人々のために今までなされてきたことよりも、はるかにもっと多くのことができるはずである。」（牧師への証 198）

2. 光の衣

- a. なぜわたしたちは神の理想とわたしたちの最初の両親が着ていた衣の種類を見るために、世の初めを研究するのでしょうか（創世記 1:27, 31; 詩篇 104:1, 2）。

「罪が侵入する前にアダムとエバはエデンの園であざやかな美しい神の光におおわれていて、彼らが近づくものにはすべてこの光が反射した。神の品性やみわぎの認識を暗くするようなものは何もなかった。しかし、誘惑者に負けたとき、その光は彼らから離れた。きよい衣を失うことによって自然界を照らしていた光を失ったのであって、もはや自然を正しく読みとることはできなくなった。」（ミストリー・オブ・ヒーリング[®] 444）

「墮落する前、アダムは呪いの結果からまぬかれていた。彼が誘惑者に攻撃された時、彼には罪の影響は何もなかった。彼は考えと行動において完全なものとして創造された。しかし彼は罪に屈してしまい、彼の高く聖なる地位から落ちてしまった。」（セレクトド・メッセージ 3 巻 141）

- b. 罪が入り込むとすぐにどのような変化が起きましたか、またそれは何を象徴しているのでしょうか（創世記 2:25; 3:7（上旬）; ヨハネの黙示録 3:17）。

「〔わたしたちの最初の両親〕の光の覆いはすぐに消え去り、そして罪の意識と神聖な覆いを失ったことで、震えが彼らを捕らえた。そして、彼らはさらされた姿を覆おうとした。」（預言の霊 1 巻 40）

「アダムとエバが罪を犯したのち、彼らは裸となった。光と安全の衣が彼らから去ってしまったからである。」（終わりの時代の諸事件 249）

「世の初めに、人は、品性だけでなく、容貌や姿も神のみかたちにかたどって創造された。罪のために神のかたちはそこなわれ、ほとんど消えてしまったが、キリストは、その失われたものを回復するためにこられた。キリストは、わたしたちの卑しい体を造り変えて、ご自身の栄光の体に似たものとしてくださる。一度罪に汚されてしまって美を失い、死ぬべき、朽ち果てるべきものとなった体が、完全な、美しい、不死のものとなる。すべての傷や醜さは、墓の中に残される。贖われた者は、長い間失われていたエデンのいのちの木に再び近づくことを許され、最初の栄光に輝く人類の完全な背丈に「成長する」のである（マラキ書四ノ二英語訳）。罪ののろいの最後の痕跡が取り除かれ、キリストに忠実に仕える者たちは、知的にも、霊的にも、身体的にも、主の完全な姿を反映して、「われらの神、主のうるわしき」を着て現われる。ああ、なんとというすばらしい贖いであろう。これこそ長い間、語り、熱望し、熱心な期待をもって瞑想してきたが、しかし決して十分には理解できなかったことであった。」（各時代の争闘下巻 424）

3. 自己義

- a. アダムとエバは彼らの衣に表されていたように、どのように神の御前で自分たちの自己義を提示しましたか（創世記 3:7-11）。

「アダムは、罪を犯した後で、まず第一に、自分がこれまでより高い存在状態にはいったような気がした。しかし、間もなく、罪の意識は彼の心を恐怖で満たした。これまででなごやかで一様だった気温が、罪を犯したふたりにはだ寒く感じられた。これまで彼らの心に宿っていた愛と平和はなくなり、その代わりに罪の意識と未来への恐怖と魂の空虚さを感じた。彼らを取りまいていた光の衣は消えてしまった。それで、彼らは、その代わりに衣服をつくろうとした。彼らは、何も着ないで、神と天使たちに会うことはできなかった。」（人類のあけぼの上巻 45）

「服装によってその人の品性が判断される。洗練された趣味や教養のある知性は、単純で似つかわしい服装の選択にあらわされる。質素で清楚な衣服は、けんそんな態度とあいまって、若い女性を気高い慎み深いふんいきで包み、それは多くの危険から彼女を守るのに非常に役立つのである。」（教育 294）

- b. 罪深い状態であったとしても、神のみもとに來ないよりは來たほうが良いのはなぜでしょうか（イザヤ書 1:18）。

「さあ、わが兄弟よ、罪深く汚れたあなたのありのままで來なさい。罪惡感という重荷をイエスに負っていただき、信仰によってイエスの功績をわがものと主張しなさい。憐れみが残っている間に、今來なさい。告白をもって來て、魂の悔い改めをもって來なさい、そうすれば神は豊かに許して下さる。あえてもう一度の機会を輕視してはならない。キリストがあなたに光を与えてくださるように、今あなたに死からよみがえるように懇願する憐れみの声に耳を傾けなさい。今、すべての瞬間は、目に見えない世界の運命と直接つながっているように見える。そうであれば、あなたの誇りと不信仰が、なおも提供された憐れみを拒絶するよう導くのをゆるしてはならない。もしそうするなら、あなたはついに嘆くままに取り残されるであろう。『刈入れの時は過ぎ、夏もはや終わった、しかしわれわれはまだ救われない』。」（教会への証 5 卷 353）

「見張りや労苦や苦難の長い夜はもうすぐ過ぎ去る。キリストはもうすぐ來られる。準備しなさい。神の天使たちは、あなたをあなた自身と地上のものからあなたを引き付けようとしている。彼らに無駄に働かせないようにしよう。信仰、生きた信仰こそあなたが必要としているものである。愛によって働き、魂をきよめる信仰である。カルバリーと、そこで人のために払われた恐ろしい、無限の犠牲を覚えていなさい。イエスは今、ありのまま御許へ來るように、そしてご自分をあなたの力また永遠の友にするようにと招いておられる。」（同上 3 卷 251）

4. 救いの象徴

- a. 衣服のほかに、どのようにわたしたちの外観が男女を区別すべきですか（コリント人への手紙第一 11:14, 15）。
- b. 贖いの計画の初めの説教と、なぜ血が流されたのかを説明しなさい（創世記 3:15; ヘブル人への手紙 9:22; ヨハネによる福音書 1:29; ローマ人への手紙 5:15, 16）。

『わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に』と述べられた言葉の中に、神は自ら、人間の心の中に新しい原則一罪、欺瞞、偽り、そしてサタンの狡猾さの刻印があるすべての物に対する憎しみを人の心に入れて下さると誓われたのである。（特別な証シリーズ 2 巻 6）

「われわれをあがなう計画は、あとで考え出されたもの、すなわちアダムの墮落後に定められた計画ではなかった。それは、「長き世々にわたって、かくされていた奥義」のあらわれであった（ローマ 16:25）。それは永遠の昔から神の統治の根本となってきた原則のあらわれであった。初めから、神とキリストは、サタンの背信と、この反逆者の欺瞞的な力によって人類が墮落することを知っておられた。神は罪が存在するように定められたのではなく、その存在を予見し、その恐るべき危機に応ずる備えをされたのであった。世に対する神の愛はまことに大きかったので、神は、「み子を信じるものがひとりも滅びないで、永遠の命を得る」ために、そのひとり子を与えることを約束された（ヨハネ 3:16）。」（各時代の希望上巻 5）

- c. 新しい衣は何を象徴していますか、またわたしたちの衣は心の中で何が起きているかをどのように示していますか（創世記 3:21）。

「自分のために流されたイエスの血によって洗われなければならないと公言するその人々が、着飾って、自分の貧しい死すべき体を飾り、さらに聖なる自己を否定された謙遜な型なるお方に従う者だと公言することができる。ああ、神がそれをご覧になる通りに、またわたしに示された通りに、すべての人がこれを見ることができるように！私がそれを見たときに感じた魂の苦悩はあまりにも耐えがたく、感じがたいものに思えた。天使は言った、『神の民は特別である。そのようなものを神はご自分のために清めておられる』。わたしは外見が心の目次であることを見た。外観にリボン、首飾りや不要なものがぶらさがっていれば、それははっきりとこれらに対する愛着が心の中にあることを示している。これらの人々は自分たちの墮落から清められないかぎり、決して神を見ることはない。なぜなら、心の清い者だけがこのお方を見るからである。」（教会への証 1 巻 135）

5. 身分証明

- a. 世の人々が現代よりは慎みある服装をしていた時代であっても、なぜ神はご自分の民のために特別な衣服を持っておられたのでしょうか（民数記 15:37-41）。

「神は、イスラエルの子供たちを周囲の偶像崇拜の国々と区別するという目的のために、非常に簡単な服装の取決めを明確にお命じになった。彼らは自分たちの服装の特異性を見て、自分たちが神の戒めを守る民であり、また神が奇跡的な方法で彼らをエジプトの束縛から導き、神に仕え、神の聖なる民となるようになされたことを思い出すのであった。彼らは自分の欲望に仕えたり、周りの偶像崇拜の国々を模倣したりするのではなく、区別された分かたれた民としてあり続け、彼らを見るすべての人が、次のように言うためである、これらは神がエジプトの地から連れ出された人々であり、十戒の律法を守る人々である。イスラエル人は、見たらすぐに分かった。なぜなら、神が簡単な手段で彼をご自分のものとして区別されたからである。」（教会への証 1 巻 524）

- b. 衣服改革についてわたしたちは何を悟るべきなのでしょう（コリント人への第二の手紙 3:2）。

「多くの不幸な感情は、自分の姉妹たちにたえず衣服改革を強く勧める人々によって生み出されていた。この極端論者にとって、この改革こそ彼らの宗教の総体と本質を構成しているかのようであった。それは会話の主題であり、彼らの心の重荷であった。こうして彼らの心は神と真理からそらされていた。彼らはキリストの精神を抱くことなく、真の礼儀におおいに欠けていることを表した。衣服をその実際の利点のために評価する代わりに、彼らはその特異性のゆえに誇っているように見えた。おそらくわたしたちの間で、何が衣服改革と同じような品性の発達を生じさせたか疑問があがったことはないであろう。」（同上 4 巻 636）

「服装における誇りと贅沢は、特に女性に起こりやすい罪である。したがって、これらの禁止の指示は直接、女性に関わるものである。」（クリスチャン節制と聖書の衛生 94）

個人的な復習問題

1. 神は人類とどのような関係を築きたいと望んでおられますか。
2. なぜ光の衣が消えたのでしょうか。
3. たとえ自分の準備ができていないと感じても神のもとへ行くべきですか。なぜですか。
4. 改心は、どのようにわたしたちの衣服に影響を与えますか。
5. わたしたちの衣服はどのようにわたしたちが何ものであるかを示しますか。

青ひも

暗唱聖句：「だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。」(コリント人への第一の手紙 10:31)

「他のすべてのことと同じく、衣服においても創造主の栄えをあらわすことはわれわれの特権である。神はわれわれの服装が清楚で健康的であるばかりでなく、また身体に合った似つかわしいものであることをお望みになる。」(教育 294)

推奨文献： 教会への証 4 巻 628-648

日曜日

11 月 12 日

1. 慎み

a. どのように、またなぜ慎みがクリスチャンの義務として述べられているのですか(テモテへの第一の手紙 2:9, 10)。

「外見を飾ることを愛することと、柔和の恵み、静かな精神との間には決定的な矛盾がある。すべてのことにおいて神の御心に従うことを求める時にのみ、平安と喜びが魂を支配するのである。

衣服への愛着は道徳を危険にさらし、女性を謙虚さと節度の特徴とするクリスチャン女性とは反対の者にする。派手で贅沢なドレスは、あまりにもしばしば着る人の心の中にある欲望を刺激し、見る人の心の中にある卑劣な情熱を呼び覚ます。神は、品性の破滅はしばしば衣服における誇りや虚栄心の放縱から起こることをご覧になる。」(教会への証 4 巻 645)

b. 外見を飾ることを重要視することは、どのように内面にある霊的なものを奪ってしまうのでしょうか(ペテロの第一の手紙 3:3-5)。

「わたしたちの姉妹の多くは優れた能力を持っており、もし彼らの才能が神の栄光のために用いられれば、多くの魂をキリストに導くことに成功するであろう。彼女たちは、贅沢な服装をしていなければ救えたかもしれない魂たちや、この世のわずらいによって神から与えられた力があまりにも無能に矮小化したため仕事の重荷を感じなかったことに対して責任はないだろうか。サタンが流行を発明したのは、女性たちの心を服装という主題に夢中にし、他の事はほとんど考えられないようにするためである。」(同上 629)

2. 健康と清潔

- a. わたしたちの健康と幸福に対する神の配慮は、着衣の一靴を含めた一方法にまでどのような影響を及ぼしますか（ヨハネの第三の手紙 2; 箴言 31:21（傍注：「緋」＝二重衣）；イザヤ書 3:16, 17）。

「魂が健康であるためには、体を健康な状態に保たなければならない。体の状態が魂の状態に影響を及ぼす。……飲食や衣服において正しい原則を忠実に守ることが、神が人間に負わせられた義務である。（伝道上巻 352）

「足には大きめで、厚底で、暖かいブーツや靴を履き、流行よりはむしろ快適さを追求すれば、血液が四肢や足にまで他の部分と同様に自由に循環できるようになるのである。」（健康改革 1871 年 4 月 1 日）

- b. わたしたちの体や衣服を清潔にすることはどれほど重要でしょうか（出エジプト記 19:10, 11; コリント人への第一の手紙 3:16, 17）。

「すべての人が健康法に厳密に従って病気の予防に努めれば、多くの苦しみから救われるであろう。清潔さの厳格な習慣を守る必要がある。多くの人は、元気なときに、健康な状態を維持するために労力を費やそうとはしない。彼らは個人的な清潔さを怠り、衣服を清潔に保つことに注意を払っていない。…体の不純物は、除かないと血液中に取り込まれ、内臓が圧迫される。自然は、有毒な不純物から身を守るために、その体組織を解放しようと努力する。この努力により、発熱やいわゆる病気が引き起こされる。しかしそれでも、もし苦しんでいる人たちが純粋な軟水を使って自然の努力を助けるなら、多くの苦しみは避けられるだろう。しかし、多くの人はそうして、システムから有毒物質を除去しようとするかわりに、すでに存在する毒を除去するために、より致死性の高い毒を体組織に取り込んでしまうのである。」（健康についての勧告 61, 62）

- c. イゼベルの例にならうことは、どのように人の本来の美しさを奪い、健康に影響を与えますか（列王紀下 9:30; 伝道の書 3:11）。

「多くの人は、化粧品を使用することによって、知らずに自分の健康を損ない、自分の命を危険にさらしている。…それらが加熱されると…毒は皮膚の毛穴から吸収され、血液中に蔓延する。この方法だけで多くの命が犠牲になってきた。」（健康やかな生涯 189）

3. 異性の服装

- a. 異性の特徴的な衣服を身につける個人を、神はどのようにご覧になっているでしょうか（申命記 22:5）。

「神は男女の衣服に明白な区別があること、またこのことに関して明確な指示を与えるだけの十分な重要性がある事柄だとみなされるように意図しておられる。なぜなら、両性によって同じ衣服が着用されると混乱と犯罪の大幅な増加を引き起こすことになるからである。」（教会への証 1 巻 460）

『『いかに生きるか』の衣服についてのわたしの記事で、わたしはもしクリスチャン女性がそうすることを選ぶならば、着るのに健康的で、便利で、経済的でありながら、慎みがあり、似つかわしいかたちの衣服を提示しようとした。』（同上 462）

「この控えめな衣服と大きく対照的なのは、男性が着る服に非常によく似たいわゆるアメリカンスタイルの衣装である。ベスト、パンツ、腰から膝の半分開くらいまであるコートのようなワンピースで構成されている。わたしは神の言葉と調和しているものとして示されてきたことから、この服装に反対した。一方、もう一つは、控えめで、快適で、便利で、健康的であった。」（同上 465）

「アメリカンスタイルの衣装を着た人々によって、神の命令は反対にされ、神の特別な指示は無視された。わたしは申命記 22 章 5 節に言及された。…神はご自分の民にいわゆる改革の服と呼ばれているものを採用することを望まれない。それは慎みのない服装であり、慎みある謙遜なキリストの信者には全くふさわしくない。

「女性の服装や外見をできるだけ異性に近づけたり、男性の服装によく似せたりする傾向が増えているが、神はそれを忌み嫌われると宣言される。」（同上 421）。

- b. 罪の程度は同じではありませんが、聖書の他の箇所では「忌むべきもの」という言葉がどのように使われていますか、またこの問題はこれらに関わる者の品性と特質にどのような影響を与えますか（レビ記 20:13）。

「〔アメリカンスタイルの〕いわゆる衣服改革により、服に調和して軽率さと大胆さの精神が生まれた。そのようなスタイルの服装を採用する多くの人は、それによって慎みと控えめさから離れてしまったように見える。わたしは神が、一慣性のある説明可能な道をとるようわたしたちに望んでおられることを示された。姉妹たちにアメリカンスタイルを取り入れさせれば、自分たちの影響力と夫への影響力を破壊することになるだろう。それらは代名詞や嘲笑の対象となるだろう。」（同上 422）

「世界の致命的な無気力があなたの感覚を麻痺させている。あなたはサタンによって盲目にされているので、罪はもはや嫌悪感を抱くものではなくなっている。神の裁きが間もなく地上に注ぎ出される。『自分の命のために逃れなさい』とは神の天使からの警告である。他の声も聞こえている『興奮してはならない。特別な警報をするような原因は何もない。…若者、軽薄な人々、快楽を愛する人々は、これらの警告はくだらない話だと考え、冗談だと無視する。親は自分の子供がこの問題に関して正しいと考える傾向があり、こうしてみな安心して眠りにつける。このような状態は、古い世界の破滅も、ソドムとゴモラが火に焼かれたときも同様であった。』（同上 5 巻 233）

4. 外観と礼拝

- a. わたしたちが自分たちが衣服を着る方法と異なる外観について話すとき、何に言及しているのでしょうか（コリント人への第一の手紙 11:14, 15）。

「女性の服装や外見をできるだけ異性に近づけたり、男性の服装によく似せたりする傾向が増えているが、神はそれを忌み嫌われると宣言される。』『また女はつましい身なりをし、適度に慎み深く身を飾るべきであ』る（テモテ第一 2:9）。」（教会への証 4 巻 421）

「服装によってその人の品性が判断される。洗練された趣味や教養のある知性は、単純で似つかわしい服装の選択にあらわされる。質素で清楚な衣服は、けんそんな態度とあいまって、若い女性を気高い慎み深いふんいきで包み、それは多くの危険から彼女を守るのに非常に役立つのである」（教育 294）

- b. 神の聖なる日に礼拝で神のみ前に来るときと、それ以外の時では違いがあるべきことが、どのようにわかりますか（イザヤ書 6:1, 2）。

「多くの人は、安息日の礼拝にどのように集会に出席すべきかについての指示を必要としている。彼らは、平日に着ている普段着で神のみ前に出てはならない。神の家での礼拝に出席する際には、全員が特別な安息日用のスーツを着るべきである。世の流行に従うべきではないが、自分の外見に関して無関心であってはならない。わたしたちは、装飾品をつけなくても、きちんと整えられていなければならない。神の子らは内も外も清くなければならない。」（教会への証 6 巻 355）

「神は、ご自分の律法を語られる時を、その重大性に応じて、荘厳な光景にしようともくろまれた。民は、神への奉仕に関連した一つ一つを最高の尊敬をもってみななければならないことを印象づけられるのであった。主はモーセに、『あなたは民のところに行って、きょうとあす、彼らをきよめ、彼らにその衣服を洗わせ、三日目までに備えさせなさい。三日目に主が、すべての民の目の前で、シナイ山に下るからである』と言われた（出エジプト記 19:10～11）。それまでの数日の間に、すべての者が神の前に出るための厳粛な準備に時間を費やすのであった。彼らのからだ衣服は、汚れからきよめられねばならなかった。そして、モーセが彼らの罪を指摘するとき、彼らは心が不義からきよめられるように、へりくだって、断食と祈りに専念するのであった。」（人類のあけぼの上巻 353）

5. わたしたちの神との関係

- a. 世俗についてわたしたちは何を悟らねばなりませんか、またなぜそれはそれほど魅力的なのでしょう（ヤコブの手紙 4:4）。

「しかし、人々は答えた。『いいえ、われわれを治める王がなければならない。われわれも他の国々のようになり、王がわれわれをさばき、われわれを率いて、われわれの戦いにたたかうのである』（サムエル記上 8:19～20）。『他の国々のようになる。イスラエルの人々は、この点で他国と同じでないことが、特別の特権と祝福であることを自覚しなかった。神は、イスラエルの人々を、他のすべての国民から分離して、神ご自身の特別の宝とされたのであった。しかし、彼らは、この大きな榮譽を無視して、異教徒の風習を模倣することを切望した。そして、世俗の風習に従おうとする切望は、今なお神の民と自称する人々の間にもあるのである。彼らが主から離れると、世の利益と榮譽を熱望するようになる。クリスチャンは、この世の神の礼拝者の風習を常に模倣しようと努めている。世の人々と一致し、彼らの風習に従うことによって、神を信じない人々に強力な感化を及ぼすことができると力説する人々が多くいる。しかし、そうする者はみな、そのために、彼らの力の根源である神から離れる。世の友となれば、神の敵である。彼らは、地上の榮譽のために、暗やみから驚くべきみ光に招き入れてくださったかたのみわざを語り伝えるために神に召されたという、言葉では表現できない榮譽を犠牲にしてしまう（ペテロ第一 2:9 参照）。』（人類のあけぼの下巻 270）

- b. クリスチャンはどのような場所のために準備をしていますか（コリント人への第一の手紙 2:9）。

「地上の家におけるすべての美しいものによって、天国の家における水晶のような川、緑の野原、風にそよぐ木々、生ける水の泉、輝かしい都、白い衣を着て歌う人たちなどを思い起こそう。この天国の世界の美しさは、どんな画家もえがくことができず、また人間の口では言いあらわすことができない。」（アドベンチスト・ホーム 629）

個人的な復習問題

1. なぜわたしたちは憤み深くあらうとすべきなのですか。
2. なぜ清潔がそれほど重要なのでしょう、また化粧品はそれにどのように影響を与えるのでしょうか。
3. 神の御前で忌み嫌われることは何ですか、またそれは何を意味していますか。
4. わたしたちが礼拝している時に、神の御前でどのように出るべきでしょうか。
5. なぜわたしたちは常に世俗によって影響を受けるのでしょうか。

キリストと結婚する

暗唱聖句:「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。」(詩篇 51:10)

「神がお命じになったことは何でも、神の力によって完成することができる。」(キリストの実物教訓 307)

推奨文献: 牧師への証 367-370

日曜日

11 月 19 日

1. 律法

- a. 結婚に関する律法はどのように定められていますか (創世記 2:24; ローマ人への手紙 7:1-3)。
- b. 神の御心に対する本当の無知と、天から啓示された光を嘲笑することの違いは何ですか (使徒行伝 17:30; ペテロの第二の手紙 3:3-6, 11, 14)。

「もし光が来たのに、その光が脇におかれたり、拒否されたりすれば、そのときは有罪宣告を受け、神の眉をひそめることになる。しかし、光が来る前には、罪とはならない。彼らが拒否できる光がないからである。」(教会への証 1 巻 116)

「命を求めることを拒否する人、自分の習慣において有罪宣告を受けることがないように、何が真理であるかを知ろうと聖書を調べようとしない人は、盲目になりサタンの欺瞞にさらされることになる。」(エレクット・メッセージ 1 巻 313)

- c. なぜ故意に無知であることが危険なのでしょう (ヨハネによる福音書 15:22; 5:40)。

「真理を聞く機会を得ないようなところに意図的に自らを置く者は、真理を聞いて、なおも執拗にその証拠に抵抗した者たちの中に数えられるであろう。」(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1145)

「真理を聞く機会があるのに、聞かなければ責任を負わないで済むと考えて、それを聞いたり、理解しようと努力しない人は、聞いても拒絶したのと同様に、神の前で有罪として裁かれるだろう。」(レビュー・アンド・ヘラルド 1893 年 4 月 25 日)

2. 個人化

- a. 文字通りの結婚において、なぜ女性は不信者の夫とであっても（あるいはその逆であっても、危険な虐待関係でない限り）結婚生活を続けなければならないのですか（コリント第一 7:13, 14; ペテロ第一 3:1）。

「妻が信者ではなく反対者である場合、神の律法によれば夫はこの理由だけで妻を出すことはできない。エホバの律法に調和するためには、妻が自ら出て行くと言わない限り、夫は彼女と同居しなくてはならない。彼は反対にあり、いろいろなやり方で圧迫され苦しめられるかもしれないが、どんな危急の場合にも恵みを与えることのおできになる神から慰めと力と助けをいただくことができる。彼は心清く、真に明確でしっかりした主義を持つ人間でなければならない。そうすれば神は彼にとらなければならぬ道について知恵を与えてくださるであろう。一時的な感情は彼の理性を支配することなく、理性がそのしっかりした手に支配のたずなをにぎっているので、情欲はくつわとたずなで制御される。」（アドベンチストホーム 388）

- b. 使徒パウロはどのようにして文字通りの描写から霊的な描写へと移しましたか、また妻はだれを象徴していますか（ローマ人への手紙 7:4, 5; コリント人への手紙第二 11:2）。

「〔教会員〕は、普段着ではなく、礼服を着るべきである。彼らはキリストと結婚しており、キリストの義の衣が彼らを覆うからである。教会はキリストの花嫁であり、教会員は指導者であるお方とくびきを負わなければならない。神は衣服を汚さないよう警告しておられる。」（ゴスペル・ヘラルド 1902 年 3 月 28 日）

「キリストの僕としてのわたしたちの義務が侵されないように、わたしたちの愛情は一方方向にのみ流れるべきである。世の記章は、わたしたちを神の子、神の王国の忠実な臣下として任ずることは決してない。イエスが来られた時、教会内に罪、世俗、不和を見出された。しかし、この順序を逆転させるのがこのお方の働きであった。彼はこの世の中にありながら、この世のものではないご自分の教会を持とうとしておられた。彼はこう言われた、『わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう』。教会は世における神聖な囲いとなるべきだった。それは、神聖な農夫によって植えられ、神によって栽培されるぶどう畑のようになるはずだった。それは義の木が植えられた苗床のようなものであり、死に至る実を結ぶ世の邪悪な木に囲まれていたが、囲いの中のすべてが主に植えられ、義の実を結ぶように意図されていた。キリストに従う者たちは、人々の堕落した心を変えるキリストの変わらない恵みの力を表すのであった。」（レビュー・アンド・ヘラルド 1893 年 12 月 19 日）

3. 最初の夫との生活

- a. ローマ 7 章の霊的な象徴を用いて、最初の結婚の下での生活を説明しなさい。
またなぜ、罪を克服するのが非常に難しいのですか（ローマ人への手紙 6:12-16;
7:5, 14, 15; エレミヤ書 17:9）。

「あなたの中の古い人は死んでいない。あなたには信心深い形式はあるが、神の清める力がない。あなたは流暢に話したり書いたりすることができ、実際にそうしている。そしてあなたの言葉に関する限り、それはおそらく正しいであろう。しかし、心の本当の言葉は話されていない。」（教会への証 2 巻 323）

「あなたが善を行うためには、神と調和した新しい人生を送らなければならない。あなたのゆがんだ性質は変わっていない。あなたは神に対しても自分自身に対しても平和ではない。あなたの魂の偉大な敵に束縛され、罪の古き人に服従している。あなたはキリストにあつて、自由な人となつてはいない。神があなたに協力して下さる前に、あなたの中に霊的な変化が必要とされている。」（性的行為、姦淫、離婚に関する証 170, 171）

- b. 再び霊的な象徴を用いて、もし最初の結婚を続けるならば、わたしたちは何を受けますか。またわたしたちはどのようにこの関係から自由になることができますか（ローマ人への手紙 6:23（上句）; 6:6, 7, 11, 12, 18; ヨハネによる福音書 8:31, 32）。

「もしわたしたちが怒り、情欲、貪欲、憎しみ、利己主義、その他の罪にふけるなら、わたしたちは罪の奴隷となるだろう。『だれも二人の主人に兼ね仕えることはできない』（マタイ 6:24）。もしわたしたちが罪に仕えるなら、キリストに仕えることはできない。クリスチャンは罪の誘惑は感じるだろう。なぜなら、肉は御霊に反するからである。しかし、御霊は肉に対して争い、絶え間ない戦いを続ける。ここでキリストの助けが必要である。人間の弱さが神の強さと結びつくのである。」（思い、品性、個性 2 巻 516）

「あなたは今、もっと早い時期に習得しておくべきだった自制心の偉大な教訓を学ばなければならない。神はあなたが、征服者となるための道徳的な力と自制心を獲得できるように、あなたの環境が変化し、聖霊によって訓練される場所をあなたにもたすだろう。それには最も強固な努力、最も忍耐強く、揺るぎない決意、そして、自己を制御する最も強い精力を要求する。」（教会への証 4 巻 92）

「あなたは今、あなたがいる場所で神を求め始めるべきである。あなたは新しく生まれなければならない。あなたが罪や肉の欲に仕えることがないように、あなたの中に回復、すなわち新しい命が創造されなければならない。あなたにはなすべき厳粛な働きがある。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889 年 7 月 22 日）

4. 自由

a. 何が真理ですか（詩篇 119:142; ヨハネによる福音書 14:6）。

「この個人的な働きによって魂がキリストのみもとに導かれたとき、服従し、謙遜になったその心を神のみ手にゆだねなさい。神がその人に最も適していると思われる働きをお勧めになる。神は、神のみもとに来るすべての者にこのお方の十分な恵みがそそがれると約束された。イエスに自分自身をゆだねる者、心の戸を開いてイエスを招き入れる者は安全に保護される。イエスは『わたしは道であり、真理であり、命である』と言われた（ヨハネ 14:6）。彼らは、イエスをもつことによって真理をもち、主にあって完全なものとされるのである。」（文書伝道 50）

「キリストは完全な真理の体系である。『わたしは道であり、真理であり、命である。』と彼は言われた。すべての信者はキリストを中心とし、彼らの品性はキリストによって輝かされ、すべての人がキリストの内に集結し、キリストのまわりを巡る。真理は天から来て、人間の代理者をあらゆる道徳的汚れを取り除き、清める。それは慈悲深い行動へと導き、また困っている人、苦しんでいる人に対する親切で優しい思慮深い愛へとつながる。これこそキリストの言葉に対する実際的な従順である。」（セクレット・メッセージ 3 巻 198, 199）

b. どのように真理を知ることにおいて自由になりますか。また何が世に対するわたしたちのメッセージの核ですか（ヨハネによる福音書 12:32; コリント人への第一の手紙 1:18; ガラテヤ人への手紙 6:14）。

「十字架の奥義は、他のすべての奥義を説明する。カルバリーから流れ出る光に照らして見るとき、われわれのうちに恐怖と畏敬の念を満たした神の属性は、美しい、人を引きつけるものに見える。あわれみ、やさしさ、父としての愛情が、聖潔、公平、力と入りまじって見える。われわれは、高くかかげられた神のみ座の威光をながめる一方では、神のご品性の恵み深いあわれみを見て、『われらの父よ』というあの永遠に続く称号の意味を、いままでになく理解するのである。

限りない知恵を持つておられる神は、われわれの救いのためには、み子の死よりほかに方法を考え出すことがおできにならなかった。この犠牲に対する報いは、きよく幸福で不死の身となって贖われた者たちを、地に住まわせるという喜びである。」（各時代の大争闘下巻 434）

「罪人がキリストの力に引きつけられて、高く掲げられた十字架のそばにいき、そこにひれ伏すときに、新しい創造が行なわれるのである。彼は、キリスト・イエスにあって新しく造られた者となる。」（キリストの実物教訓 143）

「どのような問題の局面が提示されても、すべての希望の中心であられるイエスを掲げなさい。『ダビデの若枝、また子孫であり、輝く明けの明星である。』」（牧師への証 118）

5. 古い習慣

- a. 古い人が死んだあと、わたしたちは二度と罪を犯さないということでしょうか、わたしたちはどのように目的地に到達する必要がありますか（ヨハネの第一の手紙 2:1; マタイによる福音書 5:48）。

「幕の中で大祭司としてのキリストは、カルバリーを不滅のものとなさったので、神に対して生きておられながらもなお罪に対して絶えず死に、であるからもし罪を犯す者があれば、その人は御父の御前で仲保者を持つのである。」（レクティッド・メッセージ 1 巻 343）

- b. どのように人間関係の感化力は、否定的にも肯定的にもわたしたちに影響を与えるのでしょうか（コリント人への第二の手紙 3:18; ヨハネによる福音書 1:1, 14）。

わたしたちが形成するあらゆるつながりは、例え限定的であっても、わたしたちに何らかの影響を与える。わたしたちがその影響にどの程度譲歩するかは、親密さの程度、交わりの継続性、そして交わる相手に対する愛と尊敬によって決まる。このように、わたしたちはキリストと親しみ、交わることによって、非の打ちどころのない唯一の模範であるキリストのようになるのである。」（教会への証 5 巻 222, 223）

- c. わたしたちはどのように墮落することから守られますか（コリント人への第一の手紙 15:31; ガラテヤ人への手紙 2:20）。

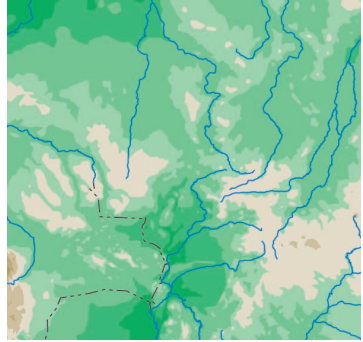
「信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。」（各時代の希望中巻 141）

個人的な復習問題

1. 神が見過ごしてくださる本当の無知と、知って理解することを拒絶することを対比しなさい。
2. なぜ最初の夫は人間の性質をこれほどまでに強くつかんでいるのでしょうか。
3. 字義通りの不信者の夫と霊的な最初の夫との間の対比を説明しなさい。
4. どのように真理は単にイエス・キリストの表れなのでしょう。
5. わたしたちの習慣は救い主との新しい関係においても、どのように影響を与えますか。

第一安息日献金 ブラジルのサンパウロ、ベレンの礼拝堂の改修のために

サンパウロ市は、同じ名前のブラジルの州の自治体です。世界で 4 番目に人口の多い都市です。サンパウロは 1554 年にイエズス会の司祭によって設立され、今日では住民の 58% がカトリック、22% がプロテスタント、残りは他の宗教を公言しています。最初の改革者がブラジルに到着し、すぐに国の他の地域に広がったのはこの都市でした。サンパウロはブラジル最大の都市であるため、多くの人がここに残り、福音を宣べ伝え、キリストのために魂を獲得し、私たちの偉大な神への礼拝所を建てました。そして、この精神で、ベレン教会（または私たちが愛情を込めて呼んでいるように「ベレンジーニョ」）を建設しました。



この教会は街の中心部近くにあり、近隣には伝道活動のための広大な畑があります。それは長い間繁栄してきました、そして何年にもわたって多くの変化が起きました。今日、それはその霊的生活を続け、周辺地域の子供たちや高齢者と一緒に働き、神の恵みによって、この繁栄し祝福された仕事に成功しました。ここブラジルで私たちの兄弟たちの最初の礼拝の宮の 1 つであるベレン教会は、それに課せられた困難にもかかわらず、それ自体が機能し続ける回復力がありました。1943 年 10 月 15 日に発足したこの礼拝所は、今日も続いているように、常に礼拝を行ってきました。

しかし、老朽化のために苦しんでいるベレンの建物の構造は、もはやここに集まって礼拝する信者の信仰ほど強くはありません。したがって、美しく長い歴史があっても、ブラジル連合のかつての集会所は、この礼拝所の広範な改修を実行し、最高の神へのすべての名誉と栄光がそのような行為の重要性に応えた建物で提供されるようにするために、世界中の兄弟たちの緊急の財政的支援を必要としています。私たちはすべての寄付者の親切な協力に感謝します—そして、罪の嵐の道を離れてイエスを求める人々の足跡を長年照らしてきたこの灯台の光を維持するのを助けてくれる兄弟姉妹を神が祝福してくださいように。

「ベレンジーニョ」教会の兄弟姉妹より

イエスはわたしの死を死なれた

暗唱聖句：「律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の形で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。」（ローマ人への手紙 8:3）

「人間がサタンに惑わされて神の法に従わなかったとき、神は失われた人類を救うためでさえ、その律法を変えることはおできにならなかった。神は愛である。神の律法は神の性質の表現である。神の律法を変えることは神ご自身を否定することになる。それは全宇宙の幸福に結びついている諸原則を撤廃することになる。」（聖書訓練学校 1908 年 2 月 1 日）

推奨文献： 教会への証 3 巻 371-380

日曜日

11 月 26 日

1. 律法

- a. 結婚の律法によれば、何が最初の夫から女性を自由にするのでしょうか（ローマ人への手紙 7:2; コリント人への第一の手紙 7:39）。
- b. だれかが最初の夫を殺害するのは合法的でしょうか（出エジプト記 20:13; ヨハネによる福音書 8:44）。
- c. 罪人を救うために、なぜ贖いの計画において律法の合法性を維持する必要があるのでしょうか（詩篇 85:10; ダニエル書 9:7）。

「神の子は人間の身代わりとなり、人間に降りかかる呪いを負い、人類を代表して神の法の誉れを維持することを誓われた。御父は世界をキリストの手にお委ねになった。それは、その仲保の働きを通して罪人を救い、律法の要求を完全に擁護するためである。彼の使命は、律法の違反である罪を、人々に自覚させることであり、その血の功績を通して、また彼の仲保によって人々を従順に戻すことであった。キリストの犠牲によって律法が維持され、罪人は罪の力から許されることができた。すなわち、罪の力から解放されるだけでなく、『造り主のかたちに』新たにされるのであった（コロサイ 3:10）」—聖書訓練学校 1908 年 2 月 1 日

2. 救いの合法性

- a. 憐れみも必要ですが、律法はそれを提供することができないため、贖いをもたらすために何が必要でしたか（ローマ人への手紙 8:3, 4）。

「十字架につけられ、よみがえられた救い主の功績がなければ、墮落した人間は律法の要求を満たすことは決してできない。」(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1890年8月18日)

「私たちは、牧師たちによって説かれた説教でも、世界中にまかれた何千ページもの印刷物でも、律法に罪人を救う何らかの力があるなどとのめかしたことはない。それどころか、法には違反者をその罪の結果から救い出す力がないということ、私たちの講演者や筆者によって何度も繰り返してきた。」(同上 1878年7月18日)

「律法の光によって罪人が罪を悟ったとき、その人にはなすべき仕事がある。神の律法の違反のゆえに神に対する悔い改めと、罪人の身代わりであり保証人である私たちの主イエス・キリストに対する信仰である。そうすれば、赦しと無償の救いが彼のものになる。しかしイエス・キリストは、神の律法の知識を持ちながらそれに違反して生きている人をお救いになることは決してない。」(同上 1878年3月7日)

- b. わたしたちが罪に縛られていた時に、イエスはわたしたちの救い主となられるために何になられましたか（コリント人への第二の手紙 5:21）。

「墮落した人間を高めるためには、キリストが彼のいるところまで到達しなければならなかった。彼は人性を取られ、人類の弱さと退化を負われた。罪を知らなかったお方が、私たちのために罪になられた。神が人間の苦しみのどん底まで自らをへりくだらせたのは、人間に手を差し伸べ、罪が彼を陥れた墮落から引き上げる資格を得るためであった。」(セレクトド・メッセージ 1巻 268)

「人々の不義がキリストの上におかれた。彼が罪人と共に数えられたのは、彼らを律法ののろいから贖うためであった。…この最大の苦しみの時に、救い主から神の御顔が見えなくなったことは、人間には決して完全に理解することのできない悲しみで救い主の心を刺しとおした。十字架上で神の子が耐えたあらゆる苦しみ、頭、手、足から流れ出た血の滴、彼の体を揺さぶる苦痛のけいれん、そして御父のみ顔が隠された時にこのお方の魂を満たした言いつくせない苦しみ、これらが人に次のように語る、『神の御子がこれらの凶悪な犯罪を自分に課されることに同意したのは、あなたへの愛のためである』と。あなたのために、神は死の支配をこぼち、楽園と不死の命の門を開かれるのである。…罪を負うお方は不法行為に対する司法の刑罰に耐え、人のために罪そのものとなられる。」(預言の霊巻 162, 163)

3. 罪深い人性

- a. イエスが自らの身に取りられた人性について述べなさい（ヘブル人への手紙 2:14-18; 7:26; テモテへの第二の手紙 2:8）。

「キリストの謙遜を見よ。彼はご自分の上に、罪によって退化し損なわれ、墮落して悩む人性をおとりになった。彼は我々の悲痛な恥を負い、われわれの悲しみを引き受けられた。彼は人が悩まされるあらゆる試みに耐えられた。彼は人性と神性とを結びあわされた。神の霊が肉の宮に宿ったのである。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1147)

「アダムがエデンで罪を知らなかったときでさえ、神のみ子が人の性質をおとりになることは無限の屈辱に近かった。ところがイエスは、人類が四千年にわたる罪によって弱くなっていた時に人性をおとりになったのである。アダムのすべての子らと同じように、イエスは遺伝という大法則の作用の結果をお受けになった。そのような結果がどういふものであるかは、イエスのこの世の先祖たちの歴史に示されている。主は、われわれの悲しみと誘惑にあずかり、罪のない生活の模範をわれわれに示すために、このような遺伝をもつておいでになったのである。」(各時代の希望上巻 35)

「もしキリストがまったくの人間でなければ、キリストは私たちの代わりになることはできなかったのである。そうでなければ、すべての人が到達するのが特権である品性の完全さを、人類の中に実現することができなかったであろう。彼は世界の光であり命であられた。イエスが人に代わって働くためにこの地上に来られたのは、人がもはや悪魔の代理者たちの支配下に置かれないためであった。しかし、人性を負いながら、このお方はご自分の生涯のために全能者に依存しておられた。このお方は人性のうちに、神の神性をつかんでおられた。そしてこうすることは人類家族のすべての者に与えられた特権なのである。キリストは人性が神性にあずかるときにできないことを、何一つなさらなかった。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1897 年 6 月 17 日)

- b. なぜイエスはわたしたちの人性をおとりになる必要があったのでしょうか（ヘブル人への手紙 2:10; 7:26）。

「キリストは真の人であられた。このお方は人となられてこのお方の人性を証明された。彼は肉体を取られた神であられた。」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 904)

「無限の犠牲を払い、天使にとっても人間にとっても神秘的な過程によって、キリストは人性をとられた。ご自分の神性を隠し、栄光を脇に置き、イエスはベツレヘムで赤ん坊としてお生まれになった。イエスは人間の肉体において神の律法を生きた。それは、肉において罪を罰し、天の知的存在者たちに対して、律法は命のために定められ、それに従うすべての者の幸福、平安、またこしえの善を保証するものであることを証言するためであった。」(ユース・インストラクター 1899 年 7 月 20 日)

4. 完全

- a. イエスの地上での生涯を述べなさい（ピリピ人への手紙 2:5-8; ルカによる福音書 2:51, 52）。

「主の義の基準は、主の永遠の王座と同様に堅固である。これは神の聖なる律法であり、墮落した状態にある人間にあわせるためにこの律法の一つの戒めも変更することはできないため、御父はご自身のひとり子を死に渡すことに同意されたのである。法律を廃止するためであろうか。否。そうではなく、罪人を救うためである。カルバリーの十字架は、エホバの律法の永続性に関する反論の余地がない論拠である。偉大な教師が山の上で説教をし、神の律法が不変であることを示したとき、彼はご自身が与えられた律法を詳しく説明していたのである。」（ビュー・アンド・ヘアル 1893 年 3 月 21 日）

「私たちのために犠牲が完全であったように、罪の汚れからの私たちの回復も完全なものとなる。法律をまぬかれる悪行はない。有罪宣告を免れる不義は存在しない。キリストの生涯は、律法の一つ一つの規則を完全に満たしていた。彼は言った、『わたしは父の戒めを守りました』（ヨハネ 15:10）。このお方の人生が私たちの従順と奉仕の基準である。」（教会への証 312 卷）

「へびのすえと女のすえの間にある敵意は超自然的なものであった。キリストにとって敵意はある意味では自然なものであった。別の意味では、人性と神性が結合していたため、超自然的であった。そして、キリストがこの地上の住人になったときほど、敵意が顕著なまでに発達したことはなかった。キリストほど完璧な憎しみをもって罪を憎んだ存在は、これまで地上に存在しなかった。このお方はその欺瞞的で魅惑的な力が聖なる天使たちに及ぶのをごらんになっておられた。そしてそれに対抗するために、このお方のすべての力が動員された。」（エレゲット・メッセージ 1 巻 254）

- b. キリストの完全さの水準を述べなさい（ヘブル人への手紙 4:14-16; ペテロの第一の手紙 2:21-24）。

「だれでも自分の活動範囲内で、クリスチャン品性の完成を目指して、果たせないことはない。いのちと信心とにかかわるすべてのことを信者たちが受けられるように、キリストの犠牲によって準備がなされた。神はわれわれが完全な標準に到達するように求めておられ、キリストのご品性の模範をわれわれに示しておられる。救い主は、悪に抵抗した生活を貫き通して完全なものとなされたご自身の人性によって、人間が神と協力すれば、この世において品性の完成に到達できることをお示しになった。これは、われわれも完全な勝利を得ることができるという神からの保証である。」（患難から栄光へ下巻 231）

5. 変化

- a. わたしたちのためにキリストがわたしたちの罪深い人間の性質のうちに死んでくださったことを受け入れる時、何が起こりますか（コリント人への第二の手紙 5:17）。

「キリストの苦しみを言葉では言い表せないほど深刻なものにしたのは、単に飢えの苦痛だけではなく、世の罪の罪深さが〔キリスト〕に非常に重くのしかかったからである。罪を知らなかった方が、私たちのために罪とされた。」（教会への証 372 巻）

「人は自分を神のかたちに回復するために、自分の外から、また上からの力を必要としている。しかし、神からの援助が必要であるからといって、人間の活動が不要になるわけではない。人間の側の信仰が要求されている。なぜなら、信仰は愛によって働き、魂をきよめるからである。信仰はキリストの功績をしっかりとつかむ。主は人間の力が麻痺するように計画しておられない。しかし、神と協力することによって、人間の力は善のために効果的に発揮することができる。神は私たちの意志が破壊されるようには計画しておられない。なぜなら、まさにこの特質を通して、神が国内外で私たちにさせようとしておられる働きを私たちが成し遂げるべきだからである。」（ヘレケッド・メッセジ 1 巻 375, 376）

- b. この変化において人の心に何が起こりますか（エゼキエル書 36:26, 27）。

「キリストが支払われた身代金はすべての人を救うのに十分である。しかし、それは、キリスト・イエスにあって新たに創造された者、つまり神の永遠の王国の忠実な臣下だけに効力がある。彼の苦しみは、悔い改めない不誠実な罪人を罰からかくまうことはない。人間は神の力と協力し、罪を征服し、キリストにあって完全に立つために人間としての努力を払わなければならない。キリストの働きは、神の力によって人間を元の状態に戻し、癒すことであった。人間の役割は、キリストの功績を信仰によってしっかりとつかみ、義なる品性を形成するために神の代理人たちと協力することである。」（北太平洋連合グリーンナー誌 1909 年 2 月 17 日）

個人的な復習問題

1. 神の律法の効力を維持することはなぜそれほど重要なのでしょうか。
2. 人類に救いをもたらすためになぜイエスは罪（最初の夫）にならなければならなかったのでしょうか。
3. キリストの人性を述べなさい。
4. 罪深い人の性質のうちにイエスはどのような生涯を送られましたか。
5. どのように罪深い人の心が変わられますか。

結婚を回復する

暗唱聖句：「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」（イザヤ書 58:12）

「エデンに設立された二つの制度—安息日と結婚関係—は、墮落において失われなかった。…教訓や模範によってこれらの神聖な制度の義務を減じる者は、神と人の両者の敵であり、自分の影響力と神から与えられた才能を用いて、混乱と道徳的墮落の状態をもたらしているのである。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1884 年 2 月 28 日）

推奨文献： 各時代の希望上巻 174–179、265–282

日曜日

12月3日

1. 家族単位

- a. サタンは神が定めた家族単位に対して何をしようとしているのでしょうか（ペテロの第一の手紙 5:8）。

「時が終わりに近づき、神の民が天のカナンの境界に立つとき、サタンは、昔と同じように、彼らをよい地にはいらせまいとして、いつそう努力する。彼はひとりひとりにわなをしかける。気をつけなければならないのは、無知で無教育な人々ばかりではない。彼は最も高い地位、最も聖なる職務の人々をも誘惑する。もし彼らをいざなってその魂を墮落させることができれば、彼らを通して多くの人々を滅ぼすことができる。そして彼は今も、三千年前に用いたのと同じ手段を用いる。この世の交わり、美貌の魅力、快楽の追求、歓楽、安楽、飲酒などによって、彼は第七条を犯させようとする。」（人類のあけぼの下巻 71）

- b. 神の使命者たちは家族単位の破壊によってもたらされるさばきを、どのように回避しようと努めていますか（マラキ書 4:5, 6）。

「まさにこの罪、つまり古代イスラエルに蔓延していた姦淫こそ、彼らに神のご不況の顕著な表れをもたらしたものであった。」（教会への証 2 巻 451）

2. キリストのさががけ

- a. (マラキに預言されていた働きに関連して) バプテスマのヨハネとはだれでしたか、またそれはどのように最終的な残りの民を象徴していますか (マタイによる福音書 11:7, 14)。

「キリストの再臨に向けて道を備える人々は、ヨハネがキリストの初臨のための道を備えるためにエリヤの霊のうちに来たように、忠実なエリヤによって代表される。」
— (教会への証 3 卷 62)

「私たちが生きている時代には、改革的な行動が求められている。」 (同上 1 卷 488)。

- b. なぜヨハネは殉教しましたか、またこれは今日何を示していますか (マタイによる福音書 14:3-5)。

「ヘロデは、ヨハネの力強く、するどいことばをきいて心を動かされ、深い興味をもって彼の弟子になるにはどうすべきかを問うた。ヘロデは、自分の兄弟がまだ生存しているのに、その妻をめとろうとしていた。ヨハネはそのことを知っていたので、それが正しくないことを忠実にヘロデに告げた。」 (初代文集 268)

「ヘロデはヨハネの助言に従って行動するほうに傾き、ヘロデヤに神の律法に反して彼女と結婚することはできないと告げた。しかし、この断固とした女性は、自分の計画を阻止させられることはないのであった。彼女の心にヨハネに対する激しい憎しみが芽生えた。ヘロデは基本的に弱く、心が揺れ動いており、ヘロデヤがヘロデに有利な立場を立て直し、ヘロデに対する影響力を維持するのに大きな困難はなかった。ヘロデは神の律法の制限に従うよりはむしろ、罪の快楽に屈した。」 (預言の霊 2 卷 70)

「真理を信じていると公言する人の多くがもし自分の本当の感情を表現するとしたら、『そんなにはっきりと話す必要がありますか』と言うであろう。…なぜ彼はヘロデに、兄の妻と暮らすことは不法であると言ってヘロデヤの怒りを買う必要があったのだろうか。彼は非常にはっきりと話したために命を落とした。なぜ彼はヘロデヤの怒りを招かずに行動することができなかったのだろうかと」— (福音宣伝者 149)

「バプテスマのヨハネは、つつましい職業の者のうちに、あるいは高位の者のうちにある罪を公の譴責をもって対処した。彼は王や貴族たちに、彼らが聞か拒否するかにかかわらず、真理を宣言した。彼は個人的にそして射て話した。彼はサンヒドリンのパリサイ人たちを叱責した。なぜなら、彼らの宗教は純粹で自発的な従順という義ではなく、形式によって構成されていたからである。…彼はヘロデヤとの結婚についてヘロデに、彼が彼女をめとるのは合法的ではないと告げた。彼は、神が各人の行いに応じて裁かれる将来の報復について語った。」 (セレクトド・メッセージ 2 卷 149, 150)

3. 改革

- a. 終わりの時代の神の民の働きは何ですか。またこれはどのようにイエスの言葉によって実例が挙げられていますか（エレミヤ書 6:16; マタイによる福音書 11:28-30）。

「柔和は尊いクリスチャンの特質である。キリストの柔和とへりくだりは、キリストのくびきを負うことによるのみ学ぶことができる。……そのくびきとは完全な服従を意味する。」（天国で 236）

- b. わたしたちはどのようにイエスの来臨を早めることができますか（ペテロの第二の手紙 3:12; 使徒行伝 3:19-21）。

「キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。」（キリストの実物教訓 47）

「終末時代に、神のすべての制度が回復される。」（国と指導者下巻 277）

- c. この背景の中で、安息日と同じ時に制定された神聖な制度はどれでしょうか（創世記 1:26-28; 2:2, 3）。

「安息日と結婚制度は、神聖なものとしてエデンで守られるよう神によって定められた。神から定められたこれらの制度はどちらも、悪を行うよう完全に心を定めている男女によって無視され、無効にされてきた。（レビュー・アンド・ヘルト 1870 年 3 月 8 日）

「神は、男と女が神聖な婚姻関係に結ばれ、誉れを冠して天国の家族の象徴となるような家族を育てよう定められた。そして、キリストは公生涯の初めに、エデンで認可されていた制度に決定的な認可をお与えになった。こうしてこのお方はすべての者に、ご自分が結婚の機会に自らのご臨在を拒まないこと、そしてその結婚は、純粋さと神聖さ、真実と正義と結びついたとき、人類家族にこれまで与えられた最大の祝福の一つであることを宣言された。司祭や教皇は人々の結婚を禁じ、修道院に隔離する法律を制定した。これらの法律と制限は、男性と女性を不自然な立場に置くためにサタンによって考案された。このようにサタンは、結婚の律法を神聖でないものとして無視するように人間を誘惑したが、同時に人間の情欲の放縦への扉を開いた。このようにして、私たちの世界をのろう最大の悪のいくつか—姦淫、淫行、婚外子殺害—が存在するようになったのである。」（パウル・エロ 1899 年 8 月 28 日）

4. 最初の神聖な制度

- a. 人間を創造された方法と動物を創造された方法の違いは何ですか(創世記 1:24, 25; 2:7, 18, 21, 22)。

「地とその上に獣が創造された後、御父と御子のご自分のご目的を、すなわちサタンの墮落前に計画されたご自分たちのかたちに人間を造ることを実行に移された。このお方たちは地球とその上のあらゆる生き物の創造において共に働かれた。そして今、神は御子に、『われわれのかたちに人を造ろう』と言われる。アダムは創造主の手から生まれたとき、気高い高さで均整美があった。彼は現在地球上に住んでいる人間の二倍以上の身長があり、均整が取れていた。彼の顔立ちは完璧で美しかった。彼の顔色は白くもなく、青白くもなく、血色が良く、豊かな健康の色合いで輝いていた。エバはアダムほど背が高くなかった。彼女の頭は肩の少し上に届いた。彼女も高貴で、完璧な均整を持ち、とても美しかった。」(預言の霊 1 巻 24, 25)

- b. 最初の結婚はどのようにして始まったのでしょうか。エデンにおいて離婚についてどのような規定が設けられていましたか。またイエスはこの回復の働きをなさいましたか(創世記 2:23, 24)。

「イエスは誤りを正し、人の中に神の道徳的な像を回復するためにこの世に来られた。結婚に対する誤った意見がイスラエルの教師たちの心に入っていた。彼らは結婚という神聖な制度を無効にしていた。人は非常に無情になってほんのちょっとした口実で妻と別れたり、望むときは妻を子供たちから離して追い出したりした。これは大きな恥辱とみなされ、捨てられた方にこの上なく痛切な苦しみを与えることがよくあった。

キリストはこのような悪を矯正するために来られた。そしてキリストが行われた第一の奇跡は婚姻の席で行われた。これによってキリストは結婚が純潔に守られる時、それは神聖な制度であることを世の人々に宣言された。」(アドベント・ホーム 383)

「安息日と結婚は、人が神の前に正しく罪のないエデンで定められた。地球の基礎が据えられ、明けの星が共に歌い、神の子らみな喜びよばわったときに、それらは確立された。しかし、人々はこれらの制度に関して神が与えた規則を破り、自らに非難と悲慘をもたらした。」(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896 年 10 月 15 日)

5. 律法の永続性

- a. イエスは離婚、また離婚後の再婚という主題について、どのような見解を持っておられますか（マルコによる福音書 10:2-12）。
- b. 律法はどれくらいの間、続くように計画されていきましたか（ルカによる福音書 16:13-17）。

「天に輝く太陽、あなたの住んでいる大地は、神の律法が永遠不変のものであるという神の証人である。それらが過ぎ去ることがあっても、神の戒めは続くのである。…イエスを神の子羊としてさし示していた象徴的な制度は、キリストの死とともに廃されるのであった。だが十戒の戒めは神のみ座と同じに不変である。」（各時代の希望中巻 14, 15）

「サタンの目的は常に神の律法を無効にし、救いの計画の真の意味を歪曲することである。したがって、彼はカルバリーの十字架でのキリストの犠牲は、神の戒めを守る義務から人間を解放する目的であったという虚偽を生み出した。彼は、神が憲法を廃止し、道徳的標準を捨て、神聖で完全な法律を無効にしたという欺瞞を世界に押しつけてきた。もし神がこれを行っておられたら、天にとってどれほど恐ろしい損失だったことであろう！カルバリーの十字架は、法の廃止を宣言するのではなく、その不変で永遠の性質を雷鳴のような音で宣言している。律法が廃止されながら、天と地と神の無数の世界の政府が維持されるのであれば、キリストは死ぬ必要はなかったのである。」（信仰と行い 118）

- c. イエスは律法の永続性を確認するために、どのような模範を残されましたか。またそれはどのように影響を及ぼし、人が結婚関係を破らないように導きますか（ルカによる福音書 16:18）。

個人的な復習問題

1. 結婚制度が終わりの時代に攻撃されているという事実の光の中で、わたしたちは何をしているべきですか。
2. バプテスマのヨハネが最初のクリスチャン殉教者であった主な理由は何でしたか。そして今日それはわたしたちにとってどのような教訓ですか。
3. 終わりの時代の改革において、結婚と安息日は、なぜつながっているのですか。
4. 結婚において回復は、どれほど重要ですか。
5. 律法は変更できないことについて、どのような例がありますか。

死がわたしたちを分かちまで

暗唱聖句：「彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」(マタイによる福音書 19:6)

「婚約はすべて慎重に考慮されなければならない。なぜなら結婚は一生の歩みだからである。男女共に、彼らが生きながらえる間、人生の浮き沈みを通して互いに離れずついて行けるかどうかを慎重に考慮しなければならない。」(アドベンチスト・ホーム 382)

推奨文献： 各時代の大争闘下巻 151-173

日曜日

12月10日

1. 一つの体になる

- a. パリサイ人は、どのように離婚と再婚の主題でイエスをわなにかけようとしたか(マタイによる福音書 19:1-3)。
- b. イエスはご自分の立場を明らかにするために、どの道德の標準をお用いになりましたか(マタイによる福音書 19:4)。

「聖書の中心的な主題、そして聖書全体の他の主題が集中している主題は、救いの計画、つまり人間の魂における神のかたちの回復である。エデンで語られた宣告における最初の希望の暗示から、黙示録の最後の輝かしい約束『彼らは彼の顔を見るであろう。そして神の名が彼らの額に残るであろう』(黙示録 22:4)に至るまで、聖書のすべての本とすべての節の主旨は、この驚くべき主題—人間を引き上げること—『わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わった』神の力を明らかにすることである。」(彼を掲げよ 56)

- c. イエスは夫婦が結婚するとき、どのように結合は一生の間であることを示されましたか(マタイによる福音書 19:5, 6)。

2. 神との契約

- a. 完全な家族単位は神のご計画の重要な一部であることを示しながら、離婚に関する神の見解は何ですか（マラキ書 2:16）。

「キリストから発せられる神の愛は決して人間の愛を破壊するものではなく、洗練され浄化された人間の愛を含んでいる。それによって人間の愛は高められ、高貴になる。人間の愛は、神性と結合し、天に向かって成長するように訓練されるまでは、決してその貴重な実を結ぶことはできない。イエスは幸せな結婚生活、幸せな炉ばたを見たいと願っておられる。真の友情の温かさと夫婦の心を結ぶ愛は天国の予兆である。」（天国で 202）

- b. 家族単位になるために結婚においてなした法に基づく約束は、離婚後どのようにその人に影響を及ぼしますか。またその約束には夫婦の他にだれも含まれますか（マラキ書 2:13-15; 箴言 2:16, 17）。

「家族のきずなは、地上における何ものよりも親密で最も優しく、神聖なものである。それは人類の祝福となるために計画された。賢明に事を運び、神をおそれ、責任を十分に考慮して結婚の誓いがなされるならばそれは祝福である。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 329, 330）

- c. ユダヤ人はどのように突然、預言者たちを信じると主張しましたか（マタイによる福音書 19:7）。

「キリストの教えは神がモーセを通してお与えになった律法に反すると、パリサイ人たちは主張していた。しかしらい病からきよめられた男に律法に従ってささげ物をささげるようにイエスが命じられたことは、この非難が不当であることを証明した。それは、さとうろとする気のあるすべての人にとって、十分な証拠であった。」（各時代の希望上巻 334）

「〔パリサイ人と律法学者たちの〕の敬虔のよそおいの下には、イエスの破滅をたくらむ深い陰謀がかくされていた。彼らは、イエスがどんな決定をくだされるにせよ、彼を非難するチャンスをみつけることができると考え、イエスを罪に定めるのにこの機会をとらえたのであった。」（各時代の希望中巻 246）

「神は教会を教え、彼らの間違いを戒め、信仰を強めているか、そうでないかのどちらかである。この働きは神のものであるか、そうでないかである。神はサタンといかなる協力もなさらない。過去 30 年間の私の仕事には、神の刻印か敵の刻印が刻まれているかのいずれかである。この問題に中途半端な働きはない。証は神の霊によるものであるか、あるいは悪魔によるものであるかのいずれかである。神の僕たちに対抗することで、あなたは神のためか、あるいは悪魔のための働きをしているのである。『その実によって彼らを見わけるであろう』。あなたの働きは、どの刻印が刻まれているだろうか。厳密にあなたの進路の結果を調べることは有益である。」（教会への証 230 巻）

3. 赦し

- a. モーセは実際、離婚と再婚について何を記しましたか。またこの汚れは、結婚前の不品行に言及しているわけでも、姦淫に言及しているわけでもないことがどのようにわかりますか（申命記 24:1-4; 22:20, 21; レビ記 20:10）。
- b. 許可が与えられて、妻は他の男に嫁いだ後はいかなる理由があっても最初の夫と再婚することはできません「汚れた」という言葉は、どのようにそれがなお罪とみなされていることを示していますか（レビ記 18:20）。
- c. なぜ、神のみ旨ではないのに、このような許可が神によってイスラエル人に与えられたのですか（エゼキエル書 20:24, 25; 14:1-5; マタイによる福音書 19:8）。

「最初のメッセージが拒否されて以来、教会には悲しい変化が起こった。真理が無視される一方、誤謬は受け入れられ、大事にされた。神への愛と神のみ言葉への信仰は冷めてしまった。教会は主の御霊を悲しませ、その御霊は大部分引き上げられた。預言者エゼキエルの次の言葉は恐ろしいほど当てはまる。人の子よ、これらの人々は、その偶像を心の中に持ち、罪に落し入れるところのつまずきを、その顔の前に置いている。わたしはどうして彼らの願いをいれることができようか。』『その多くの偶像のゆえに、主なるわたしは、みずからこれに答をする』（エゼキエル 14:3, 4）。人間は木や石の偶像にひれ伏すことはないかもしれない。しかし、世のものを愛し、不義を喜ぶ人はみな、心の中に偶像を立てている。クリスチャンと称する人の大多数は、主以外の神に仕えている。誇りと贅沢が重んじられ、宮には偶像が立てられ、その聖地は汚されている。

古代、主はイスラエルに関してご自分の僕たちにこう宣言された。『この民を導く者は、これを迷わせ、彼らに導かれる者は、のみ尽される』（イザヤ書 9:16）。『預言者は偽って預言し、祭司は自分の手によって治め、わが民はこうすることを愛している。しかしあなたがたはその終りにはどうするつもりか』（エレミヤ 5:31）。」（預言の霊 4 巻 237, 238）

「私たちが世のものを愛し、不義を喜んだり、実を結ばない闇のわざと交わったりするなら、私たちは自分の不義というつまずきを目の前に置き、心の中に偶像を築いているのである。そして、断固とした努力によってそれらを取り除かない限り、私たちは神の息子や娘として決して認められることはない。」（教会への証 5 巻 164）

4. 再婚は姦淫である

- a. イエスは人が第七条の違反以外の理由で離婚をするとき、離婚する人がそのあとに実際に続くであろう姦淫に対して責任があることを、どのように示しておられますか（マタイによる福音書 5:31, 32）。
- b. わたしたちが聖句の最後の部分に焦点をあてるとき、パリサイ人との議論を超越して、どのように同じ結論が示されますか（マタイによる福音書 19:9（下句））。
- c. まだ伴侶が生きている時に、イエスが離婚と再婚に許可を与えておられるのではありませんが、どのようにわかりますか。どのように証拠を見る必要がありますか（コリント人への第一の手紙 7:10, 11）。

「主の僕たちを通して語られる主の言葉は、多くの人に疑問と恐れを持って受け入れられる。そして多くの人には与えられた警告や叱責への従順を先送りし、不安の影がすべて頭から取り除かれるまで待つ。完全な知識を要求する不信仰は、神が喜んで与えようとしておられる証拠に決して譲ることはない。神はご自分の民に、完全な知識ではなく証拠の重みに基づく信仰を求めておられる。神が送ってくださる光を受け入れるキリストの従者たちは、他の多くの声がそれに反対して叫んでいるときに、自分たちに語りかけられる神の声に従わなければならない。神の声を聞き分けるには識別力が要求されている。

主が呼びかけても行動を起こさず、より確実な証拠や、より有利な機会を待つ者は、暗闇の中を歩むことになる。なぜなら、光が引き上げられるからである。ある日与えられた証拠は、もし拒否されれば、二度と繰り返されないかもしれない。」（教会への証 3 巻 258）

「離婚に関しては、私には語る用意がない。彼女は私が彼女に与えられるすべての光を持っている。そして彼女が自分自身の判断に従うと完全に決心しているときに、この問題を常に彼女の前に置いておくことは無駄である。あなたは私に、もしあなたの妻があなたのもとを去ったら、あなたは再婚すべきだと思うかと尋ねた。すべての状況を理解している人があなたと結婚することを選択するなら、もしあなたが結婚したことがなかったならば、私は異論はない。しかし、聖書の観点からあなたが再婚できるかどうかについて、いかなる判断をも伝える準備が十分にできていない。〔語られていた人物は宦官であった〕。私の思いはあまりにもいっぱいであり、結婚と離婚というこの厄介な問題を考えることは不可能である。あなたを助けられたらと願うが、不可能だと思われる。」（原稿リ-ス 13 巻 296）

5. 生涯のきずな

- a. 律法を知っている人々について、夫婦はどれくらいのあいだ結婚し続けますか。また結婚の誓いは、なぜこれほど固いのですか（ローマ人への手紙 7:1-3; 申命記 23:21, 22）。

「若い心の中で、結婚はロマンスで覆われており、想像力が覆っているため、この特徴をそれから取り除き、結婚の誓いに伴う重大な責任の自覚を心に印象づけることは難しい。この誓いは二人の運命を、死の手以外に断ち切ることでできない絆で結び付けるものである。」（教会への証 4 巻 507）

- b. 結婚が生涯のためであるという考えは、どのように弟子たちの反応によって強固なものにされていますか。またなぜわたしたちは今日そのような立場をとる必要があるのですか（マタイによる福音書 19:10-12）。

- c. 家族を共に保つには何が必要ですか（ローマ人への手紙 5:20）。

「キリストの恵みが、そしてこれのみが、この制度を神の意図された通りのもの、すなわち人類の祝福と向上の手段となすことができる。こうして人間の家族は、その一致と平和と愛によって、天の家族を代表することができるのである。

今日も、キリストの時代と同様、社会のありさまは、この神聖な関係に関する天の理想とは、あまりにもかけはなれた状態である。しかしながら、交わりと喜びを望んでいたにもかかわらず、苦さと失望を経験した人々に、キリストの福音は慰安を与える。キリストのみたまによって与えられる忍耐と柔和が、苦い運命を甘く楽しいものにするのである。キリストが宿っている心は、キリストの愛に十分に満ち足りているので、自己に同情や関心を引こうとあせることがない。また 魂を神にささげているために、人間の知恵の及ばないことを神の知恵がなしとげてくださる。神の恵みの啓示によって、かつては互いに離れて無関心であった人々の心が地上のいかなるきずなよりも強く永続的なきずなによって結ばれる。これこそ、試練にも耐えてゆくことのできる黄金の愛のきずなである。」（祝福の山 80, 81）

個人的な復習問題

1. なぜ結婚の誓約は生涯のものなのですか。
2. なぜ神は離婚を憎まれるのですか。
3. なぜ神はご自分の律法を明確に述べられた後に、そのような許可をお与えになったのですか。
4. 両者がなお生きている間に再婚することは、なぜ姦淫だとみなされるのですか。
5. なぜ、そしてどのように、わたしたちは家族を共に保つ必要がありますか。

主の喜び

暗唱聖句「わたしに喜びと楽しみとを満たし、あなたが砕いた骨を喜ばせてください。．．．あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。」(詩篇 51:8, 12)

「神は、私たちが持っていて益になるものは、なにひとつ捨てるようにとはお求めにならない。なにをなさるにも、いつもその子らの幸福を考えておられる。」(キリストへの道 58)

推奨文献： キリストへの道 159-176

日曜日

12月17日

1. 喜んで従う

a. どのような種類の従順を、神はお受入れになりますか。またそれはなぜですか(申命記 28:45-47)。

「真の宗教は、体的、知的、道徳的に、人間を神の律法に調和させる。それは、自制と落ち着きと節制とを教える。宗教は、精神を高尚にし、趣味を洗練し、判断を清める。それは、人間を天の清らかさを持った者とする。神の愛と摂理の支配を信じる信仰は、心配や苦勞の重荷を軽くする。それは、人間がどんなに高められようが、どんなに低い境遇におかれようが、心を喜びと満足で満たす。宗教は、直接健康の増進と長寿に寄与し、人生のすべての祝福の楽しみを増す。それは、人の心に尽きることのない幸福の泉を開く。」(人類のあけぼの下巻 262)

「自分が今求めているよりはるかに良いものを神は備えておいでになるということ、を、キリストを選んでいないすべての人が悟られるように望む。人は神のみ心に逆らって考え、行動するとき、自分の心に大きな害を及ぼしている。なにが最善であるかを知り、造られたものの幸福のために計画しておいでになる神が禁じられる道には、ほんとうの喜びを見いだすことはできない。罪の道は悲惨と滅亡の道である。」(キリストへの道 58, 59)

「神は人々に、神の愛の豊かな流れを注ぎたいと熱望しておられる。神は人々が、喜んで神のみこころを行い、与えられているすべての能力を主のご用のために用い、接するすべての人に、キリストのいさおしのゆえに義とされる道は律法に従う道であることを教えるのを見たいと、願っておられる。」(家庭の教育 70)

2. 自然の結果

- a. 従順はどのように喜びとつながっていますか (ヨハネによる福音書 14:15; 15:10, 11; 箴言 21:15)。

「従順と義務の道には、満足と喜びさえある。」(両親、教師、生徒への勧告 98)

「世俗的な人の原則は、この世の朽ちるものをできる限りすべて手に入れることである。利己的な利益への愛が彼らの生活の支配原則である。しかし、最も純粋な喜びは、富の中にもまた貪欲が常に求めているところにもない。かえって満足が支配し、自己犠牲の愛が支配原則である場所にある。人生を放蕩に過ごし、心が不平で満たされている者が幾千という。彼らは放縦で自分の思いを満たそうとするむなしい努力の結果、利己主義と不満の犠牲者になる。しかし、彼らの顔そのものに不幸が刻まれており、その背後には荒野が広がっている。なぜなら、彼らの歩みは良い行いのうちに実を結ばないからである。」(教会への証 3 巻 382)

「真の幸福は、善人になり善をなすことに見いだされる。自分に課せられた義務を忠実に果す人には最も純粋で最も大きなよろこびがある。まじめな働きにはずかしいものはない。人が日常生活の平凡な義務を軽んじるようになるのは、卑しむべき怠慢の結果である。そうした義務を果すことを拒むときに、知的道徳的欠陥が生じ、いつかはその欠陥が痛切に感じられるときがくる。怠慢な人は、生涯のある時期にその欠陥がはっきりとあらわれる。彼の生涯の記録には、生産者ということばはしるされず、消費者ということばだけがしるされる。(青年への使命 206, 207)

「あなたの経験のうちに、なにか明るいことがなかったであろうか。神のみたまを感じて、喜びで心がときめいた尊い瞬間はなかったであろうか。今までの生涯の経験をふり返ってみるとき、なにか楽しかったできごとではなかったであろうか。神の約束は道ばたに一面に咲いているかおり高い花のようなものではないだろうか。私どもはその美と甘いかおりを心から喜ぼうではないか。」(キリストへの道 163)

- b. クリスマスの態度を説明しなさい (ローマ人への手紙 12:8 (下句); ネヘミヤ記 8:10)。

「イエスは泣かれたが、ほほえまれたことは一度もないということは、よく言われることである。誠に、私どもの救い主は、人類のあらゆる悲しみを心を開いて受けられたのであるから、悲しみの人であって、悩みを知っておられたに違いない。イエスの生涯は、自己否定の生涯であって、悲痛の陰におおわれてはいたが、イエスの意気はくじけていたのではない。み顔には、苦しみ不平の色はなく、いつも変らぬ平和な落ち着いた表情がただよっていた。また、イエスのみ心はいのちの泉であって、かれの行かれたところはどこでも、休息と平和、楽しみ、また、喜びをもたらしたもうたのである。」(キリストへの道 167, 168)

3. 喜びを持って働く

- a. エデンの完全さの中で、神はわたしたちの最初の両親を幸せにするために、何を備えてくださいましたか（創世記 2:8, 15）。

「エデンに住むアダムとエバには、『それを手入れし、守るために』園の管理が任せられた。彼らの仕事は、たいくつなものでなく、楽しく爽快なものであった。神は、頭脳を活動させ、身体を強壮にし、能力を発達させるために、労働を祝福として人間にお与えになった。知的、また体的に活動することが、アダムの清い存在の最高の楽しみの一つであった。墮落の結果、彼は、美しい家庭を追われ、日ごとの食物を得るために、かたい土とたたかわなければならなくなったとき、その同じ労働は、楽園での楽しい仕事とはずいぶん異なっていたとはいえ、誘惑の防壁であり、幸福の泉であった。労働には、労苦や苦痛が伴うからといって、労働をのろいとみなすものは誤っている。金持ちは、しばしば、労働階級を軽べつして見下すが、それは、神が人間を創造された目的から全くはずれている。どんなに多くの富を所有している人であっても、祖先のアダムに与えられた嗣業と比較すれば、いったいどれほどのものであろうか。しかし、アダムは怠惰でなかった。人間の幸福をもたらすものが何であるかを知っておられた創造主は、アダムに仕事をあてがわれた。働く男女だけが、生活の真の喜びを発見する。天使たちは熱心に働いている。彼らは、人の子らのために働く神の使者である。創造主は、怠惰なのろのろした習慣をお許しにならない。」（人類のあけぼの上巻 25, 26）

- b. この世において、イエスは何をするために来られましたか。またその働きにはこのお方の側にどのような反応がありましたか（ルカによる福音書 19:10; 15:5-7）。

「まもなく、私たちは主にお会いすることになる。そして私たちは自分の時間、影響力というタラントや、財産をどのように用いたかについて神にどのような会計報告を出さなければならないであろうか。私たちの喜びは魂を救うことのうちにあるべきである。」（教会への証 5 巻 481）

「キリストのような奉仕に命を捧げる人は、真の幸福の意味を知っている。彼らの関心と祈りは自己をはるかに超越して届く。彼ら自身も、他の人を助けようとする中で成長している。彼らは最大の計画や最も心かきたてる事業に精通するようになるが、彼らが自らの身を光と祝福の神聖な通路の中におくなら、どうして成長しないでいられようか。そのような人は天から知恵を受ける。彼らはますますキリストのすべての計画においてキリストと同一化していく。霊的に停滞する機会はない。利己的な野心と自己探求は、高く聖なる活動に属する心を奪う関心、高められた大志に絶えず触れることによって譴責されるのである。」（同上 9 巻 42）

4. 喜びのある苦しみ

- a. この世においてクリスチャンの歩みをする結果として、何が予期されますか。それによってどのように感じるべきですか。それはなぜですか（テモテへの第二の手紙 3:12; ペテロの第一の手紙 4:12, 13）。

「試されること、テストされることは私たちの道徳的な訓練の一部である。私たちが神に近づき、神の力のうちにすべてを耐え忍ぶなら、ここで私たちは最も貴重な教訓を学び、最も貴重な恵みを得ることができる。」（ライフ・スッチ 265, 266）

「私たちの宗教の明るく陽気な側面は、日々神に献身しているすべての人々によって表されるであろう。私たちは、悲惨に見える試練と嘆き悲しむ関わりを持つことによって、神を辱めてはならない。教育者として受けるあらゆる試練は喜びを生み出す。宗教生活全体が、引き上げ、高尚にし、できるものとし、良い言葉と行いに香るものとなるであろう。」（教会への証 6 巻 365, 366）

- b. 自分が苦しむ必要のない何かに苦しむとき、どのように反応すべきですか。またそのような戦いの中で何がわたしたちを支えますか（ペテロの第一の手紙 2:20; ヘブル人への手紙 12:2）。
- c. 自分の最も暗い時に、何を覚えているべきですか。それはなぜですか（ヨハネによる福音書 16:20; ローマ人への手紙 8:28; 申命記 33:25; 詩篇 126:5）。

「わたしたちに対する実際上または仮定上の不正行為のため自分の精神をいらだたせるわけにはいかない。自我はわたしたちの最も恐るべき敵であって、……

感情をたやすく害してはならない。わたしたちは自分の気持や名声を守るために生きているのではなく、人を救うために生きなければならない。人を救うことに熱心になれば、相互の間によく起るわずかな意見の相違に気を留めなくなる。」（ミストリー・オブ・ヒーリング 469）

「戦いの最前線に立つ者たちは、サタンの特別な戦いが自分たちに向けられているのを見て、神からの力が必要であることを悟り、神の力のうちに労するであろう。彼らが得た勝利は彼らを高めることはなく、より一層彼らを大能者に安全に頼るようさせる。神への深くて熱烈な感謝が彼らの心の中に湧き上がり、敵に迫られながらも降りかかる患難のうちにありながら、喜んでいよう。」（福音宣伝者 266）

「業務上にいろいろの困難が起り、前途はますます暗くなり、損失が目前に迫ることもあるであろう。しかし失望してはならない。心配をみな神に任せて、平静、快活にしていよう。賢く物事を処理できる知恵を神に祈るとき、損失、失敗をまぬかれることができるのである。よい結果をもたらすように、全力を尽して自分の分を果さなければならない。イエスは助けを約束していたもうからといって、なにも努力しなくてよいというのではない。わたしたちの助け主により頼んで最善を尽したならば、結果はなんでも喜んで受け入れよう。」（キリストへの道 171）

5. 喜びをもって与える

- a. 投資の単純な原則は何ですか（マタイによる福音書 13:8, 44; ルカによる福音書 6:38）。

「どこにおいても神のみわざのため、またはわれわれの援助を要する人類の窮乏のために、神の賜物を絶えず分け与えたとしても、貧しくなることはない。……種をまく者は、種をまき散らして、増加させる。忠実に神の賜物を分け与える者もこれと同じである。彼らは彼らの祝福を分け与えることによって、増加させるのである。」（患難から栄光へ下巻 26）

- b. 与えるという行為は、どれほど重要ですか（マラキ書 3:8-11; コリント人への第二の手紙 8:1-3）。

「マケドニヤの信者たちの自発的な犠牲は、彼らが真心から献身していた結果であった。…彼らには、ささげるように勧める必要はなかった。……彼らは、他の人々の窮乏を補うために、自分たちに必要な物さえ犠牲にすることを、特権としてむしろ喜んだ。パウロは彼らを抑制しようとしたが、彼らは強いて彼らの献金を受け取らせた。彼らは、素朴で、誠実で、兄弟たちに対する愛をもち、喜んで自己を犠牲にし、慈悲の実を豊かに結んだのである。」（同上 24）

「救いの計画は完全に私たちの救い主の自発的なものである。そして、私たちのすべての慈善がみな自由意志の捧げものであるようにというのがキリストのご目的である。」（教会への証 3 巻 413）

- c. どのような種類の賜物が神に受け入れられますか（コリント人への第二の手紙 9:7）。

「〔神は〕ご自身の宝庫に強制的に物資が補充されることを喜ばれない。神の民の忠実な心は、今の時代のための救いの真理を喜び、この貴重な光のために神への愛と感謝を通して、真理を他の人に送るために自分たちの資金をもって援助しようと熱心に切望するのである。」（同上）

「クリスチャンは、自分が主の財産を忠実に管理する者であるのに比例して喜びで満たされるのである。」（管理に関する勧告 136）

個人的な復習問題

1. なぜ幸せな従順は、キリスト教の一部なのでしょう。
2. わたしたちはどのように真の幸福を見出しますか。
3. 有益な仕事は、満足と幸福において、どのような役割がありますか。
4. どの条件に基づいて、試練は喜びをもたらしますか。
5. 与える態度を持つことは、なぜ重要なのですか。

純真な良心を発達させる

暗唱聖句：「永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としないうであらうか。」（ヘブル人への手紙 9:14）

「試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思いだすことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。」（各時代の大争闘下巻 367）

推奨文献： 各時代の争闘上巻 243-261

日曜日

12月24日

1. 信仰の基礎

a. クリスマン信仰の基礎は何ですか（テモテへの第二の手紙 3:16, 17）。

「キリストはご自分の民に、み言葉を信じて実践するよう求めておられる。この言葉を受け入れて同化し、それをすべての行動、すべての品性の属性とする人は、神の力の中で強く成長する。彼らの信仰は天に起源をもつことがわかるようになる。彼らは奇妙な道に迷い込むことはない。彼らの心は感傷主義と興奮の宗教に向かうことはない。彼らは天使の前でも人間の前でも、強力で一貫したクリスマン品性を持つ者として立つのである。

キリストの教えに示されているように、真理の黄金の香炉の中に、わたしたちは魂に罪を悟らせ、改心させるものを持っている。キリストが宣べ伝えるためにこの世に來られた真理を、キリストの単純さの中で提示しなさい。そうすれば、あなたのメッセージの力はそれ自体感じられるであろう。キリストが一度も言及されたことのない、聖書に何の根拠もない理論や検証を提示してはならない。私たちには提示すべき壮大で厳肅な真実がある。『こう記されている』というのが、すべての魂の胸を打つべき試金石である。」（教会への証 8 巻 300）

b. 勤勉な聖書研究と関連して、何が必要ですか（マタイによる福音書 26:41; テサロニケ人への第一の手紙 5:17）。

2. 責任

- a. 本物のクリスチャン経験を得るために、何が必要ですか (ヤコブの手紙 4:7 (上旬); ルカによる福音書 9:23)。

「自己との戦いは最も大きな戦いである。自己を放棄し、すべてを神のみ旨に明け渡すには戦いを要する。しかし、魂はそれが聖潔のうちに新たにされる前に神に服さなければならない。」(キリストへの道 54)

「戦いは毎日行われるべきである。闇の君と生命の君の間で、すべての魂をめぐる大戦争が起こっている。」(レビュー・アンド・ヘラルト 1892 年 7 月 19 日)

「魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。……。しかしわれわれは、キリストの支配に服していないときに、悪魔に支配される。われわれはこの世の主権を争っている二大勢力のどちらかに必然的に支配されるのである。暗黒の王国の支配にはいるためには、わざわざその国の奉仕をえらぶ必要はない。光の王国と同盟することをおこたりさえすればよいのである。もしわれわれが天の勢力と協力しなければ、サタンは心を占領してそこを永住の地とする。悪に対する唯一の防備は、キリストの義を信じる信仰によって、心のうちにキリストに内住していただくことである。」(各時代の希望中巻 41, 42)

- b. どの程度まで、この約束は維持されるべきですか (ヨハネの黙示録 2:10)。

「諸侯の一人は [1529 年のドイツのシュパイエルの国会にて]、ペンをとって言った。『わたしの主イエス・キリストのみ栄えのためであるならば、……わたしの財産も生命も捨てる覚悟である。』さらに次のように言った。『この信仰告白のなかに含まれている教義以外のものを受け入れるよりは、むしろ、わたしの国民と国家を捨て、無一物で父祖の地を追われることを望む。』これら神の人々は、このような信仰と勇気を持っていた。」(各時代の争闘上巻 258)

「たとえ一つでも誤った品性の特質や、一つでも罪深い願望を抱いていれば、最終的には福音の力をすべて無効にしてしまう。罪深い欲望が優勢になることは、魂の妄想を示している。その欲望にふけるたびに、魂の神に対する嫌悪感が強まる。義務の苦痛と罪の喜びは、サタンが人間をわなに縛りつける縄である。間違った行為をするくらいなら死んだほうが良いという人だけが、忠実であると認められるだろう。」(教会への証 5 巻 53)

3. 当局への敬意

- a. わたしたちは政府当局をどのように扱うべきですか。それはなぜですか（ヘブル人への手紙 13:17; ローマ人への手紙 13:1-7; ダニエル書 2:20, 21）。
- b. 支配的な権威を有しているすべての人は、その責任をどうすべきですか（コリント人への第一の手紙 11:1）。

「ダビデの権力は、神から与えられたものであって、それは、神の律法と調和したときにだけ行使されるべきものであった。彼が神の律法に反して命令を下したときには、それに従うことは罪となったのである。『おおよそ存在している権威は、すべて神によって立てられたもの』であるが、神の命令に反したものに従ってはならない（ローマ 13:1）。使徒パウロは、われわれが従うべき原則をコリント人に書いた。『わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい』（コリント第一 11:1）』（人類のあけぼの下巻 417）

- c. 当局は個人の良心、すなわち彼らの神との関係にまで及びますか（使徒行伝 5:28, 29; 23:1; 24:16）。

「〔ウォルムで証をする時に、マルチン・ルター〕改革者は答えた。『皇帝陛下と殿下がたは、わたくしに簡単に明瞭で正確な答えを要求しておられますので、ここにお答えいたします。それは次のとおりであります。わたくしはわたくしの信仰を、法王にも会議にも従わせることはできません。と申しますのは、両者ともしばしば誤りを犯し、また互いに矛盾してきたということが明白だからであります。それゆえ、わたくしは、聖書からの証明、あるいは明瞭な議論によって、納得させられないかぎり、また、わたくしが引用した聖句によって納得させられないかぎり、そして、このようにして、わたくしの良心が神のみ言葉によって義務づけられないかぎり、わたくしは取り消すことができませんし、取り消そうとも思いません。なぜなら、キリスト者が良心に背いて語ることは、危険だからであります。ここに、わたくしは立ちます。わたくしは、これ以外に何もできません。神よ、わたくしを助けたまえ。アーメン。』（各時代の犬争闘上巻 192）

「『良心の問題に関しては、多数といえども権力を有しない』……良心の自由を保護することは、国家の義務である。そして、宗教の事に関して、これが国家の権力の限界である。国家の権力によって、宗教的行事を規定し、または強制しようとする政府はみな、福音を信じるキリスト者が、そのためにおおしく闘った原則そのものを犠牲にしているのである。」（同上 249）

「こうした虐待の代わりに、プロテスタントは良心の力を判事の上に置き、神の言葉の権威を目に見える教会の上に置くのである。」（同上 204）

「良心は人間の感情の葛藤の中で聞こえる神の声である。それに抵抗するとき、神の御霊は悲しまれる。」（教会への証 120 巻）

4. 良心

- a. わたしたちはいつも自分の良心を信用することができますか(テトスへの手紙 1:15; テモテへの第二の手紙 4:1, 2)。

『神の戒めを守らないことを私の良心は責めない』と言う人がいる。しかし、神のみ言葉には、良い良心と悪い良心があると読む。そしてあなたの良心が神の律法を守らないことを責めないという事実が、神の御目にあなたが有罪宣告を受けていないという証拠にはならない。」(思い、品性、個性 1 巻 323)

「兄弟よ、あなたの魂はよみがえらされ、あなたの信仰は拡大されなければならない。あなたは長い間、あれこれを口実に不従順であることを言い訳してきたため、良心が寝かしつけられ、自分の過ちをあなたに思い起こさせることをやめてしまった。あなたは安息日を守ることにあまりにも長い間自分の都合に従ってきたので、自分の不従順の歩みについては感じなくなってしまっている。それでもなお、あなたの責任が減じているわけではない。なぜなら、あなたが自分自身をこのような状態に陥らせてきたからである。すぐに神の戒めに従い、神に信頼しなさい。神が恐ろしい懲罰をもってあなたを訪れることのないように、神の怒りを引き起こしてはならない。手遅れになる前に主に立ち帰り、あなたの罪に対する赦しを見いだしなさい。彼はあわれみ豊かで富んでおられる。あなたが謙遜な信仰をもって神のもとに来るなら、神はあなたに平安と承認を与えてくださる。」(教会への証 4 巻 254)

- b. わたしたちの良心を助けるために、神は奇跡に何を中に入れてくださいましたか(創世記 3:15; ヨハネによる福音書 1:9)。c

「アダムとエバがエデンの園に置かれたとき、彼らは罪がなく、神と完全に調和していた。彼らの心に敵意は自然に存在していなかった。しかし、彼らが罪を犯したとき、彼らの性質はもはや罪のないものではなくなった。彼らは悪い者となった。なぜなら、彼らは神がしてはならないと指定されたことそのものを行い、墮落した敵の側に自らの身を置いたからである。もし神の側からの干渉がなかったら、人間は天に対してサタンと堅固な同盟を結んだであろう。…」

サタンは、人間に罪を犯させることに成功したにもかかわらず、また人間に自分の嘘を信じさせ、神に疑問を抱かせることに成功したにもかかわらず、また人間の本性を墮落させることに成功したにもかかわらず、ある取り決めがなされていて、それにより墮落した人間が有利な立場におかれ、彼らの性質が信心において新たにされるのであった。

『わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に』という言葉の中で、神は人間の心に新たな原則、つまり罪の、欺瞞の、見せかけの、そしてサタンの陰謀の刻印をおびたすべての憎しみを植えつけると自ら誓われた」(特別な証シリーズ B No.2 6)

5. 教育されるべき良心

a. 良い良心を持つことは可能ですか（テモテへの第一の手紙 1:18, 19; 3:9）。

「あなたの前に聖書を開いて、聖化された理性と良い良心に相談しなさい。神の御霊によって、あなたの心は動かされ、あなたの魂は感動され、あなたの理性と知性は目覚めなければならない。神の言葉に定められた聖なる原則は魂に光を与えるであろう。兄弟たちよ、私たちの知恵と美德と力の真の源はカルバリーの十字架にあるとわたしは申し上げる。キリストこそ、私たちの信仰の創始者であり完成者であられる。『わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである』。イエスだけが、知的成功と進歩のための確実な保証であられる。」（医事伝道 99）

b. 人はどのように純粋な良心を得ますか（ヘブル人への手紙 9:14）。

「自分の良心を神の言葉のもとへ持っていき、自分の生活と品性が、神がみ言葉の中に明らかにされた義の基準に従っているかどうかを確認しなさい。そうすれば、自分が知的な信仰を持っているかどうか、そして自分の良心がどのようなものであるかを判断することができる。人間の良心は、神の恵みの影響下でない限り信頼できない。サタンは啓発されていない良心に付け込み、人間をあらゆる種類の妄想に導き入れる。なぜなら彼らが神の言葉を相談相手にしてこなかったからである。多くの人は、神の律法の代わりに自分の律法を置き換えるのと同じ方法で、自分自身の福音を発明してきた。

人は自分の良心の命令に従っていれば自分は安全だと考えるだけでは十分ではない。解決すべき問題は、良心は神の言葉と調和しているかということである。そうでない場合は、それに安全に従うことはできない。なぜなら、それは欺くからである。良心は神によって啓発されなければならない。聖書研究と祈りに時間を割かなければならない。こうして心は安定し、強化され、落ち着くのである。」（思い、品性、個性 1 巻 323, 324）

個人的な復習問題

1. わたしたちは自分の生活に、どのようにクリスチャン信仰を確立しますか。
2. なぜ明け渡し、キリスト教の難問なのですか。
3. 何が政府当局や宗教当局に対する限界ですか。
4. わたしたちの良心を導くために、何が必要ですか。
5. どのように良い良心を発達させますか。

第一安息日献金



10月7日

コロンビア、南西フィールド、メデ
リンの本部のために
(4 ページ参照)

11月4日

ミッションのための安息日聖書
教科のために (30 ページ参照)



12月2日

ブラジルのサンパウロ、ベレンの
礼拝堂の改修のために
(51 ページ参照)